

平成22・23年度重点事業

見つけよう わたしの夢！ ひろげよう あなたの未来！

— 青森県特別支援学校キャリア教育充実事業事例集 —



平成24年3月

青森県教育委員会

はじめに

今日、産業や経済の構造的変化に伴う雇用形態の多様化、雇用の流動化等が急速に進む中、児童生徒一人一人が「生きる力」を身につけ、しっかりとした勤労観・職業観を形成することが求められています。

このような中、県教育委員会では、「教育は人づくり」という視点に立ち、子どもたちが志を持ち、逞しい心を備え、創造性に富んだ、社会人・職業人として自立できるよう施策の推進に努めているところであり、平成23年度は、学校教育指導の重点事項の一つとして、「キャリア教育の推進」を掲げるとともに、平成23～25年度の3か年、「明日へはばたけあおもりっ子キャリア教育推進事業」を実施し、キャリア教育の指針を策定することとしております。

一方、特別支援教育においても、一人一人の自立と社会参加を目指した職業教育の充実が求められており、平成21年3月に告示された特別支援学校新学習指導要領では、改訂の基本的な考え方の一つとして職業教育等の充実が掲げられ、キャリア教育を推進するために、地域や産業界と連携して職業教育や進路指導の充実を図ることが示されています。

このような状況を踏まえ、県教育委員会では、平成22・23年度の2か年、重点事業として、「青森県特別支援学校キャリア教育充実事業」を実施し、就労及び生活を支援する地域の人材による支援体制の組織化や授業等への活用により、特別支援学校のキャリア教育の充実を図る取組を進めてきました。

この取組により、特別支援学校高等部生徒の就労及び生活を支援する体制を県内6地域に整備するとともに、地域の人材を授業に活用することで、生徒の進路実現に向けた指導内容・指導方法の改善が図ってきたところであります。

本事例集には、これまで各特別支援学校で取り組んだ「地域の人材を活用した授業実践」や「児童生徒等のキャリア発達を支える授業実践」のほか、幼児児童生徒の生活や就労をサポートする地域の事業所の一覧等を掲載しております。

今後、県内の特別支援学校のみならず小中学校等において、本事業の成果を日々の実践に役立てていただき、発達障害を含む障害のある幼児児童生徒の進路実現とともに本県のキャリア教育の推進がより一層図られることを期待します。

平成24年3月

青森県教育庁
学校教育課長 中村 充

も く じ

はじめに

1 青森県特別支援学校キャリア教育取組事例

(1) キャリア発達を支える授業実践

ア 視覚障害者である幼児児童生徒に対する教育を行う特別支援学校 …	1
イ 聴覚障害者である幼児児童生徒に対する教育を行う特別支援学校 …	7
ウ 肢体不自由者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校 ……	16
エ 知的障害者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校 ……	31
オ 病弱者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校 ……	53

(2) 地域の人材を活用した授業実践 ……	59
-----------------------	----

(3) 各地域のスクールジョブマネージャーの取組

ア 東青地域 ……	78
イ 西北地域 ……	79
ウ 中南地域 ……	80
エ 上北地域 ……	81
オ 下北地域 ……	82
カ 三八地域 ……	83

2 サポーター一覧

(1) 東青地域 ……	85
(2) 西北地域 ……	86
(3) 中南地域 ……	87
(4) 上北地域 ……	89
(5) 下北地域 ……	90
(6) 三八地域 ……	91

3 青森県特別支援学校キャリア教育充実事業

(1) これまでの取組 ……	92
(2) 本事業の趣旨 ……	92
(3) 本事業の取組状況 ……	93
(4) 就職状況と職場定着状況 ……	94
(5) 今後の課題 ……	95

おわりに

1 青森県特別支援学校キャリア教育取組事例

(1) キャリア発達を支える授業実践

本稿では、県立特別支援学校19校が、「特別支援教育充実のためのキャリア教育ガイドブック」（独立行政法人国立特別支援教育総合研究所編著）をもとに取り組んでいる、児童生徒等のキャリア発達を支える授業の実践例を紹介しています。

ア 視覚障害者である幼児児童生徒に対する教育を行う特別支援学校

県内に2校ある視覚障害者である幼児児童生徒に対する教育を行う特別支援学校において実践している授業の中から、中学部と高等部における取組事例を紹介します。

[県立八戸盲学校中学部]

(ア) 本人・保護者・教師の願い

<p>《対象》 視覚障害 中学部2年 女子A</p>	
<p>《本人》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学部では、詩を書くことや弁論をがんばりたい。 ・高等部では、スポーツで活躍したい。 ・高等部卒業後は、洋服を売る仕事に就きたい。 ・もっと見えるようになりたい。 	
<p>《保護者》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国語と数学の力を身に付けてほしい。 ・点字盤で書くことができるようになってほしい。 ・得意なものを見つけて、自信をもって活躍してほしい。 	<p>《教師》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・場面や相手に応じたコミュニケーション能力を身に付けてほしい。 ・持ち物の整理や身支度など、生活に必要な技術を身に付けてほしい。
<p>【人間関係形成能力】</p> <p>学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行事や生徒会活動において、友達と協力しながら自分の役割を果たす。 ・場面や相手に応じて、互いの立場を考えて話したり行動したりする。 <p>家庭</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分から進んで近所の人にあいさつする。 	<p>【意思決定能力】</p> <p>学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のできること、できないことを理解し、解決に向けて自らの意思と責任でよりよい選択、決定を行う。 <p>家庭</p> <ul style="list-style-type: none"> ・休みの日の過ごし方について、自分で計画を立てて過ごす。
<p>【支援の目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・場面や相手に応じたコミュニケーション能力を身に付けられるよう、学校内外での活動の機会をとらえて、具体的な場面を想定した練習を行う。 ・肯定的な自己評価を行い、次の活動につなげられるよう、達成感や充実感をもつことのできる活動を設定する。 	
<p>【情報活用能力】</p> <p>学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア学習や進路体験学習を通して、職業に対する理解を深める。 ・社会の仕組みやルールについて理解する。 <p>家庭</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手伝い等、家庭の中で自分が果たす役割を理解して実行する。 	<p>【将来設計能力】</p> <p>学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・将来の職業生活に向けて、基本的な生活習慣を身に付ける。 ・様々な活動において、達成感や充実感をもつ経験を積み重ねる。 <p>家庭</p> <ul style="list-style-type: none"> ・将来の生き方や生活について、家族と話し合う。 ・両親の仕事について知り、働くことへの理解を深める。

(イ) 授業記録

対 象	視覚障害 中学部 1～3 年 4 名（男子 3 名：生徒 B・C・D、女子 1 名：生徒 A）
-----	---

教科等名	国語
題材名	伝え方を考えよう
本時の目標	○場面カードの内容についてロールプレイを通し、友達と協力しながら表現する。 ○場面や相手に応じた適切な言葉遣いについて話し合い、考えを深める。
キャリア発達との関連	●場面や目的に応じたコミュニケーションができる。 【人間関係形成能力ーコミュニケーション能力ー】

学 習 内 容	指導上の留意点	キャリア発達との関連
1 あいさつをする。	・あいさつの様子から、生徒 D の体調を確認する。	○人間関係形成能力 【集団参加・挨拶】
2 経験を思い起こす。 ・知らない人に何かを尋ねた経験、お願いして何かをさせてもらった経験等を発表する。 ・友達の発表を聞き、本時の学習にイメージをもつ。	・経験を思い起こすことができない時には、職場体験等、具体的な場면을提示する。 ・板書した内容を生徒 B に口頭で伝える。	
3 場面カードを使ったロールプレイ ・ペアで場面カードのくじを引き、「お願いする側」と「される側」になったやりとりを考える。 ・ペアで考えた内容を発表する。	・導入部分での発表の様子から、ペアを決定する。 ・場面カードの右下に点字を付け、全員が同じカードを使用できるようにする。	○意思決定能力 【課題解決】 ○人間関係形成能力 【自己理解、コミュニケーション】
4 互いのペアのよかったところ、改善した方がよいところを発表し合う。 ・丁寧な言葉遣い、敬語、態度等について意見を出す。 ※新たな場面カードのくじを引き、3、4を再度行う。	・意見が出ないときには、言葉遣いや態度等の観点を示す。 ・2回目は、4の活動で出された内容に気を付けて表現するよう示す。	
5 相手が替わった時、言葉遣いはどう変わるか考える。 ・先生、友達、家族、職場体験先の人について考える。	・それぞれの理解の状況を確認しながら出題する。	
6 学習事項の確認 ・場面や相手に応じた言葉遣い等、それぞれが気付いたことを発表する。 ・振り返りシートに記入する。	・生徒 B には点字の振り返りシートを渡す。 ・生徒 D には、拡大読書器を使うよう促す。	○意思決定能力 【目標設定と達成の取組】
7 あいさつをする。		○人間関係形成能力 【集団参加・挨拶】

(ウ) 授業の成果と課題

a 授業の成果

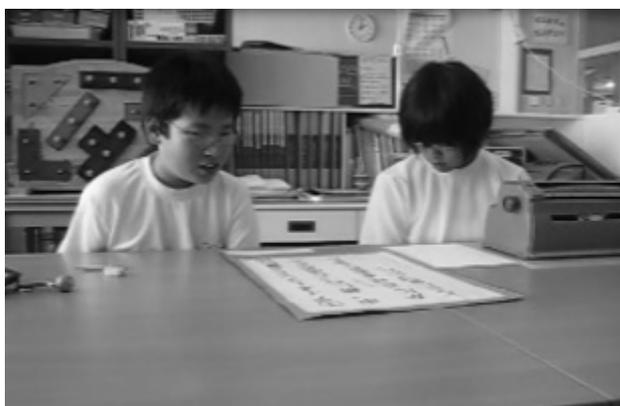
- (a) ペアで話し合う経験を通して、互いに役割を決め、協力しながら課題解決に取り組む活動を経験することができた。
- (b) 4名とも、敬語を使うべき相手や、丁寧な言葉の使い方を理解していることが分かった。
- (c) 敬語の使い方よりも、依頼したい事柄を相手に伝わるように説明することに課題があることが分かった。

b 授業の課題

- (a) 振り返りシートの結果を見ると、生徒たちはお互いに意見を出し合い、協力し合ってロールプレイを行ったと自己評価していた。しかし実際には、互いに意見を出しているものの、一人の意見をもう一人が受け入れる形で話し合いが進められていた。生徒同士の関係性を考えて、ペアや課題を設定する必要があった。
- (b) 今回のロールプレイは生徒同士で行っているため、実際場面とは異なる条件になっている。
実際の場面で生かすためには、場所や状況、相手を替えて行う必要がある。
- (c) 課題解決の過程を重視し、はじめからペアでの活動にするのではなく、個別で場面カードの課題に取り組む活動も検討できる。

<場面カード>

- ① ディズニーランドで買い物中、前に行った店のどこかに白杖を忘れてきたことに気が付いた。
- ② 本屋で「ワンピース」の漫画本を買い、レジにそれを忘れてきたことに、翌日気が付いた。
- ③ 今いる場所から、小中野駅までの道を聞きたい。
- ④ 前日、夜遅くまでかけて終えた国語の宿題のプリントを、寄宿舍に忘れてきた。
- ⑤ 家でソフトボール投げの特訓をしていたら、近所の庭にボールが入ってしまった。
- ⑥ 新幹線で座席を回転させたいが、後ろの人の背もたれがひっかかり、回転させることができない。



場面カードを読みロールプレイを相談中



二人で考えたロールプレイを発表中

〔 県立盲学校高等部 〕

(ア) 本人・保護者・教師の願い

<p>《対 象》 視覚障害 高等部保健理療科 3年 男子 A</p>	
<p>《本 人》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あん摩マッサージの技能を高め、自宅で治療院を開業したい。 	
<p>《保護者》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自宅で治療院を開業してもらいたい。 	<p>《教 師》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あん摩マッサージ指圧師免許を取得して欲しい。 ・場に応じたコミュニケーション能力を身に付けて欲しい。 ・資格を活かして将来設計をして欲しい。

【人間関係形成能力】

学校

- ・様々な活動を通して、他者と関わる経験を増やすようにする。
- ・場に応じた言動ができるようにする。

家庭

- ・相手の立場に立って考え、行動する。

関係機関

- ・上司と部下、利用者等の関係を理解し、職場での立ち振る舞いや言動に気をつけて仕事をやる。

↓

【意思決定能力】

学校

- ・マッサージ師を目指すうえで、必要だと思う学習に進んで取り組む。
- ・選択の意味や判断、決定の過程、結果には責任が伴うことを理解する。

家庭

- ・家での仕事に対して責任を持ち、最後まで行う。

関係機関

- ・マッサージ師を目指すうえで自己の課題に積極的に取り組み、主体的に解決していこうとする。

【支援の目標】

- ・あん摩マッサージ指圧師の国家資格取得に向けて、専門的な知識・技術を習得する。
- ・基本的な生活習慣について、具体的な生活場面に即して指導し、適応できる能力を養う。

【情報活用能力】

学校

- ・生き方や進路に関する情報を様々なメディアを通して調査、収集、整理し活用する。
- ・学んだり体験したりしたことと、生活にかかわる情報を集めて、マッサージの職業を考える。

家庭

- ・インターネットを積極的に活用し、自分に必要な情報を収集する。

関係機関

- ・就業体験や職業体験等を通じて、マッサージ師として働く上での必要なことが分かる。

【将来設計能力】

学校

- ・将来の夢や希望を膨らませ、それに基づいた道筋を立て、その達成に向けて努力する。

家庭

- ・現在及び将来における家での自分の役割を理解し、その遂行に努める。

関係機関

- ・様々な職業の社会的役割を理解し、マッサージ師としての自己の生き方を考える。

(イ) 授業記録

対 象	視覚障害 高等部保健療科 3年 専攻科療科 1年～3年	2名 (男子 2名) 4名 (男子 3名、女子 1名)
-----	--------------------------------	--------------------------------

教科等名	保健療科臨床実習
題材名	マッサージ実習
本時の目標	○アロマセラピートリートメントの実際を知り、保健療科におけるその役割について考える。
キャリア発達との関連	●マッサージにおける新たな可能性について理解することで、将来の生き方を考える。 【情報活用能力－情報収集と活用－】 【将来設計能力－夢や希望－】

学 習 内 容	指導上の留意点	キャリア発達との関連
1 挨拶	・姿勢を正して、はっきり最後まで言わせる。	○人間関係形成能力 【集団参加、挨拶】
2 実習のペアを決める。	・施術対象となることを考えてペアを決める。	○意思決定能力【選択】
3 導入及びアロマセラピートリートメントの紹介	・説明を聞く際には、講師の方を向くようにさせる。 ・アロマセラピーの職域と保健療科との関連性を説明する。	
4 講師によるデモンストレーション	・講師の姿勢や手の動きが見える位置で確認する。	
5 実習 (1)前半 (2)後半	・施術する立場、施術される立場を理解させ、ペアがお互いに円滑な体験できるようにする。	○人間関係形成能力 【他者理解、協力・共同】
6 まとめ・質疑応答等	・質問する時の言葉遣いや姿勢に留意する。 ・事前に質問事項や感想をまとめておくように指示しておく。	○人間関係形成能力 【場に応じた言動】 ○意思決定能力【振り返り】
7 挨拶	・姿勢を正して、はっきり最後まで言わせる。	○人間関係形成能力【挨拶】
8 感想文の作成 (事後指導)	・今回の授業で理解し、感じたことがこれからの進路や学習にどのように関わっていくかという視点も含めて書くように指示する。	○将来設計能力【夢や希望】 ○意思決定能力 【目標設定、振り返り】

(ウ) 授業の成果と課題

a 授業の成果

あん摩や指圧施術を受けることに興味を示さない生徒であったが、オイルを用いて優しく触れるマッサージの刺激は「気持ちいい」、「これなら良いかも」という感想を持てた。また、オイルマッサージと併せてアロマセラピー効果についても、お気に入りの香りとして「オレンジ」の香りを発見することもできた。香りの効果とともに、アロマセラピートリートメントの世界をもっと知りたいという欲求が芽生えた。

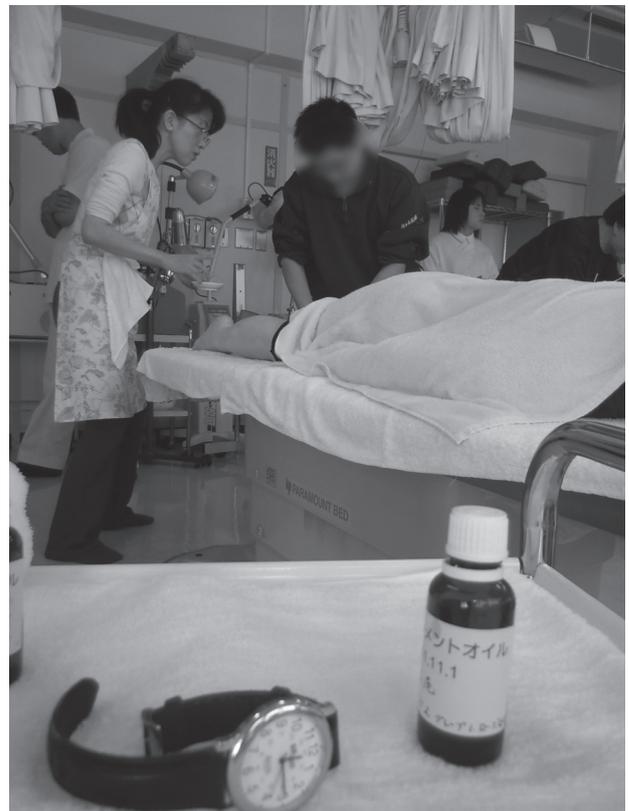
その後は、資格取得に向けて学習に励んでいる。

b 授業の課題

今回の対象生徒は3年生であり、もう卒業が目前である。そのことを考えると、マッサージについての興味関心を高めて日常の学習意欲を高めるという取り組みは、もっと早い段階において必要だったと考える。

また、アロマセラピートリートメントの授業は、マッサージに加えてプラスアルファの香り効果という点において、卒業後の治療手段を広げる大変良い機会であった。しかし、エッセンシャルオイルやキャリアオイルの材料を揃える費用を考えると何度も継続した授業で扱うのは難しい。

アロマセラピートリートメントの要素を少しでも通常授業でも取り入れていくための指導計画を検討する必要がある。



アロマセラピートリートメント実技指導の様子 下腿への施術練習

イ 聴覚障害者である幼児児童生徒に対する教育を行う特別支援学校

県内にある3校ある聴覚障害者である幼児児童生徒に対する教育を行う特別支援学校において実践している授業の中から、小学部、中学部及び高等部における取組事例を紹介します。

〔 県立弘前聾学校小学部 〕

(ア) 本人・保護者・教師の願い

<p>《対 象》聴覚障害 小学部5年 女子A</p>	
<p>《本 人》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 歯科衛生士になりたい。 	
<p>《保護者》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の事をできるだけ自分でやれるようになってほしい。 ・ 友達との関わりを通して様々な事を学んでほしい。 ・ 健康に留意して、規則正しい生活を送れるようになってほしい。 	<p>《教 師》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 周りの状況を把握して、行動できるようになってほしい。 ・ 生活経験を広げて、できることを増やしてほしい。
<p>【人間関係形成能力】</p> <p>学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 先生や友達とやりとりできる。 <p>家庭</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 家族や近所の人に挨拶をする。 ・ 体を清潔にする。 <p>関係機関</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 居住地交流校の友達と交流をする。 	<p>【意思決定能力】</p> <p>学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分で決めた目標を学期末に振り返り、反省して発表する。 <p>家庭</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 毎日日記を書き、振り返る習慣を付ける。
<p>【支援の目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 周囲の人との関わりをとおして、日常生活における望ましい習慣や、人の話を最後まで落ち着いて聞く態度を身に付け、自主的に行動できるようにする。 ・ 語彙を増やし、自分の思いや経験を整理して、相手にわかりやすいように話したり書いたりできるようにする。 ・ 基本的な生活習慣を確立する。 	
<p>【情報活用能力】</p> <p>学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 児童会活動や学級当番活動を通して、学校の役に立っていることに気づく。 <p>家庭</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭でのお手伝いを継続して行う。 	<p>【将来設計能力】</p> <p>学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 身近な職業や働く人に関心を持つ。 <p>家庭</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 両親の仕事に興味を持ち、より深く知ろうとする。

(イ)授業記録

対 象	聴覚障害 小学部1、2、5年 6名(男子2名、女子4名)
-----	------------------------------

教科等名	自立活動
題材名	豆腐作り
本時の目標	○相手の話す内容を理解し、行動する。 ○説明が理解できないときには、質問をする。
キャリア発達との関連	●仕事・働く人など身の回りの様々な環境への関心 【情報活用能力ー様々な情報への関心ー】

学習内容	指導上の留意点	キャリア発達との関連
1 あいさつ	・伝えることを意識させるために、相手の顔を見るように促す。	○人間関係形成能力 【集団参加・挨拶】
2 豆腐づくり	・手順カードを作成し、黒板に掲示する。適宜、講師の説明の補助とする。 ・グループにわかれての作業の際は、グループ内の教師が講師の説明内容を補う。 ・講師の説明に従って豆腐作りを行うが、危険を伴わない限り、「見たい」「触れたい」という児童の意欲を尊重する。 ・グループでの作業進度が異なる場合は、進んでいる他のグループの様子を見学させ、作業に見通しを持てるようにする。	○情報活用能力 【活動の見通し】 ○情報活用能力 【情報収集と活用】 ○意思決定能力 【活動の選択】 ○人間関係形成能力 【自己理解・他者理解】
3 後片づけ	・後片づけの重要性について確認を促し、個々にできる作業を分担する。また、必要に応じて教師が支援する。自分の力でできた達成感を味わえるように留意する。	○意思決定能力 【活動の選択】 【目標への意識・意欲】
4 あいさつ	・講師へのお礼の気持ちをこめることを意識づける。	○人間関係形成能力 【集団参加・挨拶】

(ウ) 授業の成果と課題

a 授業の成果

- (a) 身近な食べ物である豆腐を取り上げたことにより、活動への意欲が高まった。
- (b) 外部からの講師を招いて活動したことにより、挨拶等のコミュニケーションの際、伝えるための工夫を自ら行うことができた。

b 授業の課題

- (a) 年齢差が大きく（小学部1年生から5年生まで）、また、障害の程度の異なる（単一障害から障害を併せ有する）集団を一斉に指導し、個々のニーズに合わせて興味・関心を高めるための工夫はどうあればよいか。



豆腐作りの手順説明

こちらで準備したカードを貼ってもらいました



大豆をミキサーで砕く作業

上手にできるかな…ドキドキの児童たち



豆乳を温める作業

じっと見つめる目は真剣そのもの



絞るかすのおからでドーナツづくり

わあ～いいにおい！！おいしそうだね

〔 県立八戸聾学校中学部 〕

(ア) 本人・保護者・教師の願い

<p>《対 象》 聴覚障害 中学部 2年 女子 B</p>	
<p>《本 人》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 5 教科の勉強を頑張りたい。 ・ ダンスが好きなので、ダンス教室に通ってみたい。 ・ 歌とダンスが好きなので音楽の学校に進学したい。 	
<p>《保護者》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国語と数学の力をできるだけつけてほしい。 ・ 自分の進路や将来の夢についてよく考えてほしい。 ・ 宿題をきちんとやってほしい。 	<p>《教 師》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 現実的な進路選択に向けて、自己決定できる力をつけてほしい。 ・ 場に応じた話し方やマナーを覚え、周囲のことを考えた行動がとれるようになってほしい。
<p>【人間関係形成能力】</p> <p>学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 相手の気持ちや立場を考えて話したり、行動したりする。 ・ 自分と健聴者との違いに気づき、努力すべき点を考える。 <p>家庭</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校での出来事や必要な連絡等について、家族に積極的に伝える。 	<p>【意思決定能力】</p> <p>学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 進路の見学や体験をもとに、中学部卒業後の進路先を主体的に決定する。 ・ 自分で具体的な目標を立て、達成のための方法を考え、最後まで取り組む。 <p>家庭</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭において、勉強や手伝い、生活においての目標を立て、自主的に取り組む。
<p>【支援の目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 主体的に進路を考えることができるように、進路にかかわる体験ができるようにする。 ・ 相手の気持ちや立場を考えて行動する力の向上を図る。 	
<p>【情報活用能力】</p> <p>学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 進路体験学習を通して、関心を持っている職業に対する理解を深める。 ・ 職業に関する情報を新聞や本、パソコン等を活用して集める。 <p>家庭</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新聞やテレビのニュースに注目し、社会の動向や情報への理解を深める。 	<p>【将来設計能力】</p> <p>学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 将来への夢やあこがれの職業について現実的な条件を含めて考える。 ・ 将来の職業生活に向けて、基本的な生活習慣を身に付ける。 <p>家庭</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭生活の計画を立て、計画に沿った健康的な生活を送る。

(イ) 授業記録

対 象	聴覚障害 中学部 2年 1名 (女子 1名)
-----	------------------------

教科等名	自立活動
題材名	高等学校体験入学会を振り返ろう
本時の目標	○自分と相手(健聴者)との適切なコミュニケーション方法を見つける。 ○聴覚障害者として、健聴者の中でどのようなことに注意が必要か確認する。
キャリア発達との関連	●高等学校体験入学会を通して自己理解を深め、将来の生き方を考える。 【人間関係形成能力ー自己理解ー】

学 習 内 容	指導上の留意点	キャリア発達との関連
1 あいさつ	・相手に伝わるように最後まで話すように促す。	○人間関係形成能力 【集団参加・挨拶】
2 活動内容について	・活動内容について理解しているか、生徒に発表させる。 模造紙に活動内容を記し、説明の際に活用する。	○将来設計能力 【活動の見通し】
3 高等学校体験入学会について		
(1) 体験内容を話す	・5W1Hを押さえて話すよう促す。	○情報活用能力 【情報収集と活用】
(2) 体験のビデオを観る	・観るべき場면을事前に整理しておく。	
(3) 体験した感想を話す	・体験入学会で、どのようなことに注意したかを発表させる。	○人間関係形成能力 【自己理解・他者理解】
4 健聴者の中で生きていくことについて		
(1) 質問に答える	・「どんなことで困難を感じるか」、「自分に困ったことがあった場合は、どうすればよいか」、「自分を他の人(健聴者)に分かってもらうには、どうすればよいか」などを考える時間を設ける。	
(2) 進路体験学習での目標を考える	・健聴者の中での具体的なコミュニケーション方法や心構えなどを考えることを意識づける。	○意思決定能力 【目標設定と達成の取組】
5 あいさつ	・相手に伝わるように最後まで話すように促す。	○人間関係形成能力 【挨拶】

(ウ) 授業の成果と課題

a 授業の成果

体験入学会について、VTRを視聴し、視覚的・客観的に振り返らせる中で、5W1Hに注意させて、当日の様子を自分の言葉で表現させた。当日は、担当の先生の話もよく分かったようで、体験した学習についても詳しく説明することができた。ただ、同学年の他校の生徒とのやりとりは、挨拶以外はなかった。そのことを考える中で、「普段から自分は引っ込み思案で、まわりの人に積極的に話しかけることが少ない」ということを自己分析できた。あるべき姿として「将来、健聴者がいる高等学校に進学するために、今から中学校との交流会の時など、手話以外の様々な方法を用いて積極的に話しかけるようにしたい」と決意を述べていた。体験入学会を振り返ることを通して、客観的に自分を見つめることができたことが、大きな収穫であった。

b 授業の課題

「質問に答える」では、これまで健聴者とのかかわりの中で、大きな困難を感じる場面が少なかったため、質問に対して、具体的な事例や対応策を考えることが難しかった。事実、今回の体験入学会でもパソコン等の活動が中心で、コミュニケーションの部分で困難を感じることはなかったようだ。本人からは「今から中学校との交流会の時など、手話以外の方法を用いて積極的に話しかけるようにしたい」という決意があった。ただ、積極的に話しかける他に、実際にどのような困難があるのかについて、高等学校に進学した聾学校卒業生の話を聞く機会を設定したり、課題を気付かせる場面を体験できる機会を設けたりすることも今後、必要である。

〔 県立青森聾学校高等部 〕

(ア) 本人・保護者・教師の願い

<p>《対 象》 聴覚障害 高等部 1 年 男子 C</p>	
<p>《本 人》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・忘れ物が多いので、減らすようにしたい。 ・黒板に書いている文や数式をノートに早く書けるようになりたい。 ・卒業後は、県内で就職をしたい。 	
<p>《保護者》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会全般のことに目を向け、いろいろなことを知ってほしい。 ・教科学習や資格取得に関する学習に力を入れてほしい。 ・県内で安定した職業（公務員、事務等）に就いてほしい。 	<p>《教 師》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の興味や身近なところから、様々な職業や働くことに関心を持ってほしい。 ・最後まで根気と責任を持って物事に取り組んでほしい。 ・情報を正しく受け取り、自己表現できるようになってほしい。
<p>【人間関係形成能力】</p> <p>学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理解しようとする気持ちで話を聞き、わからないときは質問する。 ・意見を求められたときには、自分なりの考えを話す。 	<p>【意思決定能力】</p> <p>学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職場見学や職業調べ等とおして、高等部卒業後の進路先を主体的に決定する。 ・自分で目標を立て、解決に向け最後まで取り組む。 <p>家庭</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本人に選択させる場面を増やし、自分なりに理由や結果を考える。
<p>【支援の目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な職業を知り、働くことに関心を持たせる。 ・家庭学習に毎日取り組み、最後まできちんと行う習慣や態度を養う。 ・相手の話をよく聞き、自分の気持ちや考えを表す力を伸ばす。 	
<p>【情報活用能力】</p> <p>学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産業現場等における実習をおして、職業に対する理解を深める。 ・社会の出来事に興味を持ち、ニュースを見たり新聞を読んだりする。 <p>家庭</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な出来事やニュースを課題にし、身近なことへの興味・関心を広げる。 	<p>【将来設計能力】</p> <p>学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メモファイルを活用し、宿題や提出物などを自分で確かめ、最後まで確実に行う。 ・活動に見通しをもち、何をどのようにすればよいのか考えながら行動する。 <p>家庭</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭での役割を責任を持っていねいに取り組む。

(イ) 授業記録

対 象	聴覚障害 高等部 1～3年 10名 (男子3名、女子7名)
-----	-------------------------------

教科等名	自立活動
題材名	社会人として必要な力とは何か
本時の目標	○聴覚障害者の職場での問題解決の方法を話し合うことができる。 ○社会人として必要な力について考えることができる。
キャリア発達との関連	●就職している卒業生の話聞くことによって、働くことのやりがいや厳しさについて知り、自分の将来のことを真剣に考える。 【人間関係形成能力ー自己理解・他者理解ー】 【将来設計能力ー夢や希望、進路計画ー】

学 習 内 容	指導上の留意点	キャリア発達との関連
1 挨拶をする。	・相手に伝わるように最後まで話すように促す。	○人間関係形成能力 【挨拶】
2 前時を振り返る。	・卒業生の講演で話題に取り上げられた職場での課題が何であったのか確認する。 ・職場での課題について前時に整理したものを掲示し、振り返りを促す。	○意思決定能力 【振り返り】 ○意思決定能力 【振り返り】
3 本時の内容について知る。 「社会人として必要な力とは何か」 (1)解決方法の発表	・本時の課題を黒板に掲示し、提起する。 ・特に人間関係について考えることを説明し確認を促す。 ・人間関係の問題点について一つずつ取り上げ、発表する機会を設ける。 ・発言の際、文法上の誤りがみられたときにはその場で訂正する。	○意思決定能力 【目標設定】 ○意思決定能力 【目標設定】 ○人間関係形成能力 【意思表示】
(2)解決方法に対しての質問	・質問者と発表者の一対一のやりとりにならないように、他の生徒にも質問や同意・反対の意思を促す。	○人間関係形成能力 【自己理解・他者理解】
(3)意見交換	・話し合い活動が成立するように意見に対しての発言を促す。	○人間関係形成能力 【自己理解・他者理解、協力・共同】
4 本時のまとめをする。	・振り返り用紙に社会人として必要な力について記述するよう指示する。	○意思決定能力 【振り返り】
5 次時の学習内容を知る。	・本時がどこまで進んだのか、課題は何であるのか確認する。	○意思決定能力 【肯定的な自己評価】
6 挨拶をする。	・相手に伝わるよう最後まで話すように促す。	○人間関係形成能力 【挨拶】

(ウ) 授業の成果と課題

a 授業の成果

本校高等部の生徒たちは、卒業までに身に付けてほしい力について学校で指導されているが、十分に身に付いているわけではない。その要因として、家庭と学校や寄宿舎の行き来のみで生活することの多い生徒たちは、特定の人と生活をし、地域参加が少ないため、聴覚に障害のない生徒であれば身に付いているはずの社会性等が身に付いていないことが考えられる。また、自分の将来像をイメージすることが難しい生徒に対し、教師が経験則や一般的な考え方に沿って教えようとするところがあり、生徒と教師の間にギャップが生じていることも考えられる。

生徒からすると、教師から社会で必要な力について言われることは、大人からの押しつけと感じてしまうのかもしれない。前述の授業の前に講師を招き、「社会人として、働くこととはどのようなことか」という内容の講演会を行った。講師は、本校高等部の卒業生であり、生徒にとっては年齢的にも近い存在である。生徒たちは身近な先輩からのメッセージを熱心に見聞きし、社会の中で必要な力について改めて知る良い機会となった。

本時は、先輩の講演をもとに、「社会人として必要な力は何か」について、各自の考えを發表し、様々な考え方を知る学習である。生徒たちは、先輩の話をもとに、必要な力について發表し、話し合うことができた。特に職場でのコミュニケーションや人間関係についてどうすれば解決できるのか各自の意見を述べ、解決策を探ることができた。話し合いをすることによって、他者の考えを受け入れ、そして自分の意見と照らし合わせながら、よりよい解決方法を導き出そうとする様子がみられた。

b 授業の課題

先輩の講演の中で、社会人として必要な力は、職場でのコミュニケーションや人間関係を円滑にすること、ルールや規則を理解し守ること、仕事の目的とやりがいを見つけることが述べられていた。授業は、コミュニケーションと人間関係に絞って展開したため、ルールや規則、仕事の目的ややりがいなどについては話し合うことができなかった。これらのことについては、今後生徒全員で話し合う必要がある。講演で取り上げられた社会人として必要な力は、学校生活でも通じるものがある。学校で取り組める内容を検討し、できることから身に付けさせることが今後の課題である。

ウ 肢体不自由者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校

県内に3校ある肢体不自由者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校と高等部単独の知肢併置特別支援学校の肢体不自由教育部門において実践している授業の中から、小学部、中学部及び高等部における取組事例を紹介します。

特に、本稿では、重度重複の児童生徒に対する授業の取組事例も紹介します。

[県立青森第一養護学校小学部]

(ア) 本人・保護者・教師の願い

《対 象》 肢体不自由 小学部	
《本 人》 ・大きくなったらお花屋さんになりたい。	
《保護者》 ・自分の身の回りのことや外出等、一人で行えることを増やしていきたい。 ・勉強を頑張って、進学、就職できるようになってほしい。	《教 師》 ・学年相応の学習内容が定着してほしい。 ・基本的な生活習慣を身に付けてほしい。 ・体力を付け、様々な生活経験をしてほしい。 ・場に応じた対応ができるコミュニケーション能力を身に付けてほしい。
<p>【人間関係形成能力】</p> <p>学校</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の思いや考えを、自信を持って話す。 体験した内容を相手に分かるように伝える。 自分の長所や短所を知って、伸ばしていこうとしたり、改めようとしたりする気持ちを持つ。 持ち物緒整理整頓を心がける。 <p>家庭</p> <ul style="list-style-type: none"> 頼まれた用件・用事をこなす。 身だしなみの善し悪しに自分で気付き、整えたり、様々な場にふさわしい服装を選んだりすることができる。 	<p>【意思決定能力】</p> <p>学校</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分でやりたい役割を選んで活動する。 目標を決めて活動に取り組む。 良かったことや改善点を振り返り、次の活動へ生かす。 <p>家庭</p> <ul style="list-style-type: none"> 良いと思うことは自分で決めて行う。 家庭の手伝い等、役割の必要性がわかり、責任を持って取り組む。 <p>関係機関</p> <ul style="list-style-type: none"> 体験等を通して、働くために必要な力を知る。
<p>【支援の目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 人間関係を広げ、様々な活動に自主的・主体的に取り組もうとする意欲や態度を養う。 周囲から感謝される経験を通して、役割や責任を果たす喜びや意欲を育てる。 自立的な生活習慣や学習習慣を養う。 	
<p>【情報活用能力】</p> <p>学校</p> <ul style="list-style-type: none"> 身近な花や野菜の栽培をする。 身近で働く人の様子が分かり、興味・関心を持つ。 <p>家庭</p> <ul style="list-style-type: none"> 家族や親戚の人の仕事に関心を持つ。 自分の役割を果たしたり、喜ばれたりすることでやりがいを感じ、手伝いや仕事を進んで行う。 <p>関係機関</p> <ul style="list-style-type: none"> 公共の交通機関や施設を利用する。 お金の大切さを知り、計画的な買い物をする。 	<p>【将来設計能力】</p> <p>学校</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の役割に責任を感じ、最後までやり通すことで達成感を味わう。 決められた時間や約束、ルールを守る。 運動や作業に主体的に取り組み、体力を付ける。 <p>家庭</p> <ul style="list-style-type: none"> 掃除や身支度等、身の回りの事柄を自分で行う習慣を身に付ける。 余暇につながる活動や遊びを増やす。 <p>関係機関</p> <ul style="list-style-type: none"> 体調が悪いときは、自分から休養したり通院したりなどの対処をする。

(イ) 授業記録

対 象	肢体不自由 小学部2年～6年 6名（男子5名、女子1名）
-----	------------------------------

教科等名	生活科・総合的な学習の時間
題材名	電話の応対マナー ～上手な受け方を覚えよう～
本時の目標	○電話のマナーやていねいな言葉遣いを覚える。 ○電話を通して、簡単な受け応えをする。
キャリア発達との関連	●社会自立に向けて、必要な習慣を身に付ける。 【人間関係形成能力－挨拶、場に応じた言動－】 【将来設計能力－習慣形成－】

学 習 内 容	指導上の留意点	キャリア発達との関連
1 あいさつ	・当番に合わせてあいさつをさせる。	○人間関係形成能力 【集団参加・挨拶】
2 講師の紹介 ・家族のこと ・仕事の内容 ・特技の披露	・仕事の内容等、分からないことがないか質問を受ける。	○情報活用能力 【様々な情報への関心】
3 自己紹介	・名前は大きな声で言うように伝える。 ・テキストを一読し、大切な事柄を理解できるようにする。	○人間関係形成能力 【挨拶】 ○情報活用能力 【情報収集と活用】
4 電話のマナー (1)電話の応対 ・ハッキリとした声 ・明るくていねいな言葉遣い ・相手の確認	・相手の顔が見えないことから、頼りになるのは声ということに気付かせる。 ・家でできていることを振り返り、新しく学ぶことを意識づける。 ・ていねいな話し方に慣れるよう、講師の後に復唱させる。	○将来設計能力 【習慣形成】 ○意思決定能力 【振り返り・肯定的な自己評価】
(2)ていねいな言葉遣い ・父、母 ・はい、いいえ ・です、ます ・失礼ですが ・あいさつのことば	・あいさつは時間帯によって異なることを確認する。	○人間関係形成能力 【挨拶・場に応じた言動】 ○将来設計能力 【習慣形成】 ○情報活用能力 【様々な情報への関心】
(3)ロールプレイング ・電話に出る ・あいさつ ・相手が名乗った場合と相手が名乗らない場合の聞き分け	・実際に近い環境でできるよう、模擬電話機を使う。 ・応え方に戸惑わないよう、テキストを見ながら行う。 ・用件を聞き取ったり、用件に応じてスムーズに応えたりすることが難しいような時には、聞き返してよいことを再度伝える。 ・録音を聞き、自分の話し方を評価する。	○人間関係形成能力 【人とのかかわり・場に応じた言動】 ○将来設計能力 【情報収集】 ○意思決定能力 【振り返り・肯定的な自己評価】

<p>(4)電話で気をつけた いこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・両親が不在時の 対応 ・知らない人から の電話 <p>5 感想発表</p> <p>6 あいさつ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の話し方を聞いて、良いところ に気付くようにする。 ・電話は、いろいろな相手からかかっ てくることや、様々なトラブルがあ ることが理解できるよう伝える。 ・児童が知りたいこと、不安に思っ ていることを引き出す。 ・知らない人からの場合等、その対処 方法について考えられるよう、具体 的に事例を伝える。 ・家でのやりとりと比較して、本時 でできるようになったこと等を引き 出す。 ・自己肯定感を味わえるよう、具体 的に個々の良かった点等を評価し、今 後の意欲へとつなげる。 ・当番に合わせてあいさつをさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○情報活用能力 【様々な情報への関心】 ○人間関係形成能力 【人とのかかわり・意思表示】 ○意思決定能力 【振り返り・肯定的な自己評 価】 ○人間関係形成能力 【集団参加・挨拶】
--	--	--

(ウ) 授業の成果と課題

a 授業の成果

- (a) 電話をかけたり、電話に出たりすることは、家庭生活の中で体験してる児童が多かったため、興味・関心が高く、意欲的に取り組むことができた。
- (b) 感想発表では、「今までは『もしもし』だけだったが、新しい言葉をたくさん覚えた」、「あいさつの言葉を使ってみたい」等、新しい言葉を覚えたことを喜び、今後意欲を見せる児童が多かった。
- (c) 生活年齢に応じたていねいな話し方については、これまで日常の授業だけではなかなか定着が難しかったが、外部講師から重ねて学ぶことにより、改まった態度で学ぶ姿勢が見られた。学習後は、意識してていねいな話し方をしようとする場面も増え、継続した指導の効果が見られている。
- (d) 社会生活における電話の対応マナーの必要性について、保護者に説明するとともに、事前に、家庭での電話利用状況について聞いたり、学校での学習内容を知らせたりする等、家庭と連携しながら行うことができた。

b 授業の課題

- (a) 交友関係が狭く、電話のやりとりは親子や親戚内に留まっているため、経験が広がりにくい。
- (b) 昨今の社会状況では、電話での商品勧誘や詐欺等も多く、特に、保護者不在時に児童が電話に出ることを懸念して、学習した事柄を十分生かすことが難しい。

[県立八戸第一養護学校 中学部]

(ア) 本人・保護者・教師の願い

<p>《対 象》 肢体不自由 中学部 2 年 女子 A</p>	
<p>《本 人》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高校受検に向けて勉強を頑張りたい。 ・ 自分一人で歩けるようになるために、体力をつけたい。 ・ 親の支援を少しずつなくしていき、自分でできることを増やしたい。 	
<p>《保護者》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本人がやりたいと思うことは支えてあげたい。 	<p>《教 師》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 場に応じた話し方やマナーを覚え周囲のことを考えた行動がとれるようになってほしい。 ・ 計画を立てて見通しを持ちながら学習や活動に取り組んでほしい。
<p>【人間関係形成能力】</p> <p>学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習や職場体験等を通して自分の長所や適性に気づき、自己理解を深める。 ・ 他者に配慮しながら意見を話したりまとめたりする。 	<p>【意思決定能力】</p> <p>学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の特技や興味・関心等に基づいた選択をする。 ・ 生活や学習上の課題を意識し、主体的に解決しようとする。
<p>【支援の目標】</p> <p>これまで学習してきたことを生活や進路計画の中で活かしていくことを通して、就職・就労を意識した具体的な行動を選択できるようにする。</p>	
<p>【情報活用能力】</p> <p>学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 進路に関する情報を収集したり整理したりする。 ・ 就労に関する学習を通して今取り組んでいる学習や係活動の大切さを理解する。 	<p>【将来設計能力】</p> <p>学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 集団活動の中でよりよく活動して行くために必要な役割分担やその方法等を考える。 ・ 進路に関わる目標や計画の大切さを知り、将来に向けて見通しを持つ。

(イ) 授業記録

対 象	肢体不自由 中学部1年～3年 9名(男子5名、女子4名)
-----	------------------------------

教科等名	特別活動
題材名	先輩の話から学ぼう
本時の目標	○卒業生の講話を聞き、日々の努力によって自分の能力を伸ばすことが、将来の社会参加につながることに気付く。 ○教師以外の人とかかわり、生徒の実践的なコミュニケーション能力を高める。
キャリア発達との関連	●社会における就業、進学に関する仕組み、流れを知る。 【情報活用能力ー興味、関心に基づく職業観、進学観、勤労観の形成ー】

学 習 内 容	指導上の留意点	キャリア発達との関連
1 あいさつをする。	・声を出して、ゆっくりと話すよう促す。	○人間関係形成能力 【集団参加・挨拶】
2 講話を聞く。	・大切だと思う事柄をメモする。 ・講話の内容を聞き取り、準備した質問がそのまま活用できるかどうかを判断させる。	○情報活用能力能力 【情報収集と活用】
3 質問をする。	・事前に、質問時のマナーとして、「自分の学年と名前を言ってから質問をする」ことや、「回答をいただいたらお礼のあいさつをする」ことを伝えておく。	○人間関係形成能力 【集団参加・挨拶】
4 感想をまとめる。	・講話の内容が「どんな困難を乗り越えてきたのか」、「目標を持つことの大切さを自覚し、自分自身の目標を振り返ることができたか」という視点であることをアドバイスする。	○将来設計能力 【生き方や進路に関する現実的探索】
5 あいさつをする。	・声を出して、ゆっくりと話すよう促す。	○人間関係形成能力 【集団参加・挨拶】

(ウ) 授業の成果と課題

a 授業の成果

- (a) 高等部を卒業して就職した先輩の話を通じて、日々の努力で自分の能力を伸ばすことができることに気付いた生徒が多かった。

※下記四角囲み資料（授業後の生徒の感想）参照

b 授業の課題

- (a) 生徒が質問するとき、他の生徒が出した質問と重ならないように選択しながら質問していた。事前に質問を考え、それを発表するだけでは、実践的なコミュニケーション能力の向上につながらないと思う。今後は、できるだけ多くの人との触れ合いを持ち、会話をする機会を多く設定していく必要がある。

※資料（授業後の生徒の感想）

私は中2ですが、高等部受検のことや高等部卒業後のことを悩んでいました。でも、先輩の「しっかり勉強をした方がいい。」という話を聞いて、私はその通りだと思いました。

私は英語が苦手、あきらめていました。でも、勉強をして少しでも克服しようと思いました。

そして、就職するとき大切なことも参考になりました。それは、あいさつすることとお礼をすることです。

私は、あいさつやお礼をすることにあまり気をつけていなかったもので、これからしっかりとやっていきたいです。

これらのことを学べて、これからの不安が少し減りました。このことを忘れないようにしたいです。



[県立青森第一高等養護学校（高等部）]

(ア) 本人・保護者・教師の願い

<p>《対 象》 肢体不自由 高等部2年 男子A</p>	
<p>《本 人》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自宅から通学できる大学へ進学したい。 ・将来はパソコンを使った事務的な仕事に就きたい。 	
<p>《保護者》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業後の進路については、本人の意向を尊重しているが、青森市内の大学への進学、もしくは、事務系への就職をしてほしい。 	<p>《教 師》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分でできること、できないことを把握し、見通しを持って行動してほしい。 ・将来の進路に向けて、必要な学力や意識を高めてほしい。
<p>【人間関係形成能力】</p> <p>学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害者職業訓練高等訓練機関や青森市内の専門学校等、本人に適すると思われる進路の情報を知る。 ・様々な仕事を直に見学したり、話を聞いたりして、一般就労とは異なる福祉就労を知る。 ・様々な資格の取得を目指す。 <p>家庭</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者と一緒に大学進学説明会に参加する。 	<p>【意思決定能力】</p> <p>学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日々の見通しを持つために、週間予定表を準備し、机上の見える位置に置いて、随時確認するようにする。 ・また、生活日誌を準備し、5～6項目についてできたかどうかをチャレンジタイムにチェックし、翌朝担任に提出するようにする。 ・自分で行うこと、他者に依頼することを具体的に確認する。必要なことは迷わずに依頼して、活動に遅れないようにする。
<p>【支援の目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要な報告や連絡、確認ができるようになる。 ・自分でできること、できないことを把握し、時間内にできないときは依頼し、見通しを持って行動できるようにする。 ・将来の進路に向けての必要な学力や意識を高める。 	
<p>【情報活用能力】</p> <p>学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校から家庭への連絡に目を通し、その内容を確認するようにする。 ・トイレに行く前は、万が一の転倒時に備え、必ず担任等に報告するようにする。 ・授業に遅れた場合等は、理由を報告するようにする。 	<p>【将来設計能力】</p> <p>学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オープンスクールに参加して情報を収集する。 ・受験に向けての集中学習に取り組む。 ・産業現場等における実習を経験し、将来の生活をイメージする ・卒業後の生活に必要なことを知る。 <p>家庭</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路について、家庭で話し合う。

(イ) 授業記録

対 象	肢体不自由 高等部2年 男子1名
-----	------------------

教科等名	職業一般（学校設定教科）
題材名	県内の大学・短大の入試方法について
本時の目標	○志望校を決めたり、絞り込んだりすることで、将来設計を立て、 寄宿舎と協力しながら生活全般の見通しを図るとともに、日常生活への波及をねらう。 ○進路決定までのプロセスの中で、学習や生活力の必要性の自覚を促す。
キャリア発達との関連	●将来設計や進路希望の実現を目指した目標の設定とその解決策への取組 【意思決定能力ー自己選択（決定・責任）ー】

学 習 内 容	指導上の留意点	キャリア発達との関連
1 あいさつをする。	・あいさつを促す。	○人間関係形成能力 【集団参加・挨拶】
2 前時の学習内容の復習をする。		○情報活用能力 【情報収集と活用】
3 本時の学習内容の説明を聞き、学習内容を知る。	・県内の大学・短大についての情報をプレゼンテーションで振り返りながら、本時の学習内容について説明する。 ・大学の入試方法には一般入試のほかに、センター試験利用入試等があることを新聞を提示して説明する。	○将来設計能力 【活動の見通し】
4 3年間で学ぶ教科・科目等を確認する。	・3年間の教育課程の資料を配布する。	○情報活用能力 【情報収集と活用】
5 ワークシート（大学入試選抜方法）に記入し、発表する。	・ワークシート（大学入試選抜方法）を配布し、説明しながら記入を促す。 ・新聞記事を使い、補足説明を行う。 ・意見や感想を出しやすい雰囲気を作り、必要に応じて助言を行う。	○人間関係形成能力 【意思表示】 ○情報活用能力 【情報収集と活用】
6 自分に合っている入試方法を発表する。	・本人の選んだ入試（推薦入試もしくはAO入試と予想される）の条件について、詳しく説明する。	○意思決定能力 【肯定的な自己評価】
7 AO入試を選ぶとすれば、自分のPRは何なのかを記入し、発表する。	・AO選抜のワンポイントアドバイスを呈示する。	○意思決定能力 【肯定的な自己評価】

<p>8 選んだ入試方法のためには、今後、どのような生活を送っていったらよいか発表する。</p>		<p>○将来設計能力 【習慣形成】 ○意思決定能力 【目標設定】</p>
<p>9 本時の学習内容を確認する。</p>	<p>・重要項目を示し、補足説明を行う。</p>	<p>○情報活用能力 【情報収集と活用】</p>
<p>10 本時の活動について自己評価表に○×を付け、発表する。</p>	<p>・自然な感想を引き出す。</p>	<p>○意思決定能力 【肯定的な自己評価】</p>
<p>11 あいさつをする。</p>	<p>・あいさつを促す。</p>	<p>○人間関係形成能力 【集団参加・挨拶】</p>

(ウ) 授業の成果と課題

a 授業の成果

- (a) 意見発表では、生徒の意見を引き出すことができた。
- (b) 自分の生活習慣を見直して、こうしてはいられないのだという意識付けになった。
- (c) 進路に対する意識に変化が見られたことから、卒業後の準備を進めるきっかけになったと思われる。

b 授業の課題

- (a) 推薦入試やAO選抜に対する理解を深めたが、それに向け、具体的に求められることを、今後、きめ細かに指導しなければならない。
- (b) 本時の学習により、生徒の意識が変化するような内容、方法であったのかということの検証が必要である。
- (c) 教師の説明する時間が長く、生徒自らが考えて活動する授業展開にする必要がある。

[県立弘前第二養護学校小学部（重度重複障害）]

(ア)本人・保護者・教師の願い

<p>《対 象》 肢体不自由（重度重複障害） 小学部 2年 男子A</p>		
<p>《本 人》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 家族や友達、先生とたくさんかかわりたい。 		
<p>《保護者》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分がしたいことを合図などで知らせるようになって欲しい。 ・ 文字の認識ができるようになって欲しい。 ・ 将来は気持ちよく過ごせる場所で社会と何らかのかかわりをもって生活できる状況を作っていきたい。 	<p>《教 師》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ いろいろな人とのかかわりを受け入れて興味・関心を広げて行って欲しい。 ・ 自分の気持ちを表情や発声、身体の動きで伝え心豊かになって欲しい。 	
<p>【人間関係形成能力】</p> <p>学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の気持ちを表情や発声等で表現する。 <p>家庭</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭でできる挨拶を意識して行い、自分の気持ちを発声や表情で表現する。 		<p>【意思決定能力】</p> <p>学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実物を提示し、遊びたい方を視線や表情等で選んで遊び、自己選択・決定の経験を積む。 <p>家庭</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 食事やおやつの時間を中心に食べたい方を視線や発声で選ぶ。
<p>【支援の目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 安定した対人関係を基盤に気持ちの共有を図り、自分の気持ちを表情や発声等で表出することを増やす。 ・ いろいろな学習活動を通して、人や場面へ適応する力を育てる。 ・ 水分、食事、排泄等の緊張緩和などを中心とした生活リズムの獲得を図り、健康な体づくりを目指す。 		
<p>【情報活用能力】</p> <p>学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教師の働きかけや様々な感覚刺激を受け入れる。 ・ 言葉掛けや支援を受けて、股関節や足首、肩などの部位の緊張のゆるめに応じる。 <p>家庭</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 買い物などに出かけたときに、様々な環境やその様子について見たり聞いたりする。 	<p>【将来設計能力】</p> <p>学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 活動に見通しを持ち、落ち着いて活動する。 <p>家庭</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 食事の用意ができるまで、おもちゃで遊んだり料理を作っている様子を言葉で伝えたりしながら待つことを理解する。 ・ 食事の準備（テーブル拭き）を一緒に行う。 	

(イ) 授業記録

対 象	肢体不自由（重度重複障害） 小学部 2年 1名（男子 1名）
-----	--------------------------------

教科等名	自立活動
題材名	秋だね、いろいろ感じよう～ハロウィンを楽しもう
本時の目標	○合図の音やランタンの光に気付き、表情や視線の動きで表す。 ○ふれあい遊びをする教師を受け入れ、歌に合わせた身体接触到に快の表情を表す。
キャリア発達との関連	●見たこと、聞いたこと、感じたことを表現する。 【人間関係形成能力－意思表示－】 ●集団活動に参加し、教師や友達との良い関係を築きながら活動をする。 【人間関係形成能力－集団参加、人とのかかわり－】

学 習 内 容	指導上の留意点	キャリア発達との関連
1 はじまりの歌 ・歌を聴いて始まりに気付く。	・すぐ側で歌いかけ、はじまりを意識させるようにする。	○情報活用能力 【様々な情報への関心】
2 呼名の歌 ・名前を呼ばれて反応を示す。	・歌に合わせて、はっきりと名前を呼び、呼んでいることに気付かせる。	○情報活用能力 【様々な情報への関心】
3 歌タイム ①「ぱっちゃんこくりのみ」 ・音を聴く ・教師を見る ・頬を触られることを感じたり、期待して待ったりする。	・「ぱっちゃんこ」でたたいた手をゆっくり広げ、児童と視線を合わせてから頬に触り見通しを持たせる。	○人間関係形成能力 【意思表示、人とのかかわり】 ○将来設計能力 【習慣形成】
②「いもほりのうた」 ・教師と向かい合い、歌に合わせて身体を揺らしたり、サツマイモを引っ張ったり、触ったりする。	・いもに付いている紐を児童に握らせ、歌を歌いながら一緒に手を動かし、曲想の変化に合わせて声の調子や表情を変えて違いに気付かせるようにする。	○人間関係形成能力 【人とのかかわり】 ○情報活用能力 【様々な情報への関心】
4 いろいろタイム「聴く、見る、感じる、触れる」 ・音に気付いたり、光刺激を注視・追視したりする。	・光刺激が出てくる方向から音を提示し、斜め上方向から下方向に影絵や、ランタンをゆっくり動かす。 ・白布越しに音を提示してから、児童の頭上にハロウィン教材を	○情報活用能力 【様々な情報への関心】 ○意思決定能力 【自己選択】

<ul style="list-style-type: none"> ・風を感じたり、手を伸ばしたりして教材に触ったりする。 	<p>提示し、教材を揺すったり、懐中電灯で光をあてたり、風を当てたりして反応を待つ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音や光刺激に注目させるために言葉掛けはできるだけ少なくして、表情や視線等を観察する。 ・電気を徐々に点けて徐々に明るくする。 	
<p>5 ふれ合いタイム「おすしすしすし」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の教師とのかかわりを経験する。 ・タッピングや身体接触によって、リズムカルな歌を身体で感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・緊張しないように言葉掛けをしながらとゆっくりと座位保持椅子から下ろす。視線を合わせて、表情を見ながら言葉掛けしたり、音楽に合わせて身体や顔などいろいろな部分に触ったりする。 	<p>○人間関係形成能力 【人とのかかわり】 ○情報活用能力 【様々な情報への関心】</p>
<p>6 終わりの歌</p> <ul style="list-style-type: none"> ・終わりの歌を聴いて授業の終わりを意識する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師と顔を合わせたり、隣の児童の手を触れさせたりしてかかわりを持つようにする。 	<p>○人間関係形成能力 【人とのかかわり】</p>

(ウ) 授業の成果と課題

a 授業の成果

- (a) 今までは隣にいる教師の働き掛けに応える場面が多かったが、最近では中央に出ている教師の呼びかけに応じて発声したり、動きを目で追ったりすることが増えてきた。
- (b) 「歌タイム」「いろいろタイム」「ふれあいタイム」という学習の流れがわかってきて緊張したり泣いたりせずに活動することができてきたが、かかわる人が替わることを受け入れてふれあい遊びをするようになってきたり、音が鳴る方向や光の動きにちらりと視線を動かすことが多く見られた。

b 授業の課題

- (a) 児童同士が見える、気付くことができる位置の工夫、
- (b) 教材の見えやすさや扱いやすさの工夫、
- (c) 教師の支援の仕方やMT、STの位置、の点で改善が必要と思われる。

[県立弘前第二養護学校高等部（重度重複障害）]

(ア)本人・保護者・教師の願い

<p>《対 象》 肢体不自由（重度重複障害） 高等部1年 女子A</p>	
<p>《本 人》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の気持ちを伝えたい。 ・友達とたくさんかかわりたい。 	
<p>《保護者》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人とのかかわりを持って欲しい。 ・できる活動を継続して欲しい。 ・物を投げないようになって欲しい。 	<p>《教 師》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・短い時間でも日中の活動があり、生きがいのある充実した生活を送って欲しい。 ・人が好きなので適切なかかわり方をしたい。
<p>【人間関係形成能力】</p> <p>学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分から発声し挨拶をする。 ・相手に気付いてもらえるように、優しく触れたり、発声したりして意思を指さしや発声で伝える。 	<p>【意思決定能力】</p> <p>学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実物を見て指さしや発声でやりたい活動を選ぶ。
<p>【支援の目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適切な人間関係を持てるようにかかわり方を覚える。 ・誰にでも分かるような要求の手段を広げる。 ・何種類かの活動を組み合わせて学習に取り組めるようにする。 ・できる活動を増やすようにする。 ・自分の視界に入る範囲内で、目的の場所へ行けるようにする。 	
<p>【情報活用能力】</p> <p>学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集団の中で周囲の様子に左右されず、自分の活動ができる。 ・あいさつする人や報告する人が誰であるか、写真から選ぶことができる。 	<p>【将来設計能力】</p> <p>学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一定時間、集中して学習に取り組むことができる。 ・ペットボトルラベルはがしや、プルタブ入れ等の活動を20分程度継続して行う。

(イ) 授業記録

対 象	肢体不自由（重度重複障害） 高等部 1 年 1 名（女子 1 名）
-----	-----------------------------------

教科等名	自立活動
題材名	手を使った作業をしよう
本時の目標	○自分から発声し相手に伝えることができる。 ○手元を見ながら活動が続けることができる。
キャリア発達との関連	●自分の思いを適切なかかわり方で表現する。 【人間関係形成能力－意思表示－】 ●「できた」という体験の中で自己有用感を得る。 【人間関係形成能力－自己理解－】 ●作業的な活動を通して、自分が果たすべき役割があることを理解し継続的に実行する。 【情報活用能力－役割の理解と実行－】

学 習 内 容	指導上の留意点	キャリア発達との関連
1 あいさつをする。	・発声がない場合は、示範をして発声を促す。	○人間関係形成能力 【挨拶】
2 活動内容の順番を選択して伝える。	・実物を提示し、やりたい順番を聞く。 手に触れない距離で提示する。	○意思決定能力 【目標設定、自己選択・決定】
3 選択した順番に活動を行う。 ①ペットボトルラベルはがし 10 個 ②プルタブ入れ 10～20 個 ③牛乳パックはがし 40 枚 ④空き缶潰し 10 個 ※①～④の活動が終わる毎に 4～6 の活動に移る。	・左手に持つペットボトルを傾け、右手でつまむプルタブの位置と角度を同じようになるように支援する。 ・牛乳パックを押さえ、剥がれにくい時は手伝い、意欲を持続させる。 ・終わった物をカゴやトレイに入れない時や投げようとした時は、投げる前に支援し、教師に渡すように促す。	○情報活用能力 【役割の理解と実行】 ○将来設計能力 【習慣形成】
4 膝上にカゴやトレイを乗せたまま車いすを操作し、教師へ伝えに行く。	・一定時間手に物を持ったまま次の活動に移らないときは次の物と交換する。 ・車いすのハンドリムから手を離れた時は言葉掛けしながら手を戻すように支援する。	○人間関係形成能力 【意思表示】

5	発声や身体に触ることで伝えに来たことを教師に気付いてもらおう。	・生徒からの働きかけを待ち、働きかけがない時は示範をして働きかけを促す。	○人間関係形成能力 【意思表示】
6	活動が終わったことを伝える。	・教師に伝える内容を生徒の発声の後に続けて話し、教師に褒めてもらうことで自己有用感を育てるようにする。	○人間関係形成能力 【自己理解】
7	全ての活動が終わったことを知る。	・準備した活動が全て終わったことを確認しながら振り返り、達成感を味わわせる。	○意思決定能力 【振り返り】
8	あいさつをする。	・発声がない場合は、示範をして発声を促す。	○人間関係形成能力 【挨拶】

(ウ) 授業の成果と課題

a 授業の成果

- (a) 皆がいても周囲に左右されず、生徒の活動する時間が延びてきた。
- (b) 担任の教師に誉められることを動機づけに、「伝えたい」という気持ちや、その教師のところまで「持って行く」という気持ちが育った。
- (c) 失敗させない配慮で成功経験を積み重ね、優しく人に「トントントン」と体に触れてかかわることや、物を優しく置くことなどができるようになった。
- (d) 授業でできるようになったことが、日常生活の中でも人やものとのやりとりの中に反映されてきている。

b 授業の課題

- (a) 一つの活動ができるようになると集中する時間が短くなる傾向が見られることから、新しい活動（作業的内容の活動種目）を見つけたり、活動をつなげたりすることが必要である。
- (b) 担任以外の教師とでも活動ができるようになることが必要である。

エ 知的障害者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校

県内に6校ある知的障害者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校と知肢併置特別支援学校2校の知的障害教育部門において実践している授業の中から、小学部、中学部及び高等部における取組事例を紹介します。

[県立森田養護学校小学部]

(ア) 本人・保護者・教師の願い

<p>《対 象》知的障害 小学部4年 女子</p>	
<p>《本 人》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周囲の大人や友達と十分かかわりながら生活したい。 〈好きなこと・・・人との身体接触、絵本を読んでもらうこと、自分が主となったかかわり遊び〉 	
<p>《保護者》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校だけでなく家庭でも落ち着いて物事を考え、日常生活を送ってほしい。 	<p>《教 師》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉で依頼する等、適切にかかわりを得られるようになってほしい。 ・流れに沿って活動してほしい。
<p>【人間関係形成能力】</p> <p>学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・できないことは、言葉で依頼する。 <p>家庭</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かんしゃくをおこさずに、身の周りのことをする。 	<p>【意思決定能力】</p> <p>学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いくつかの課題の順番を自分で決めて、取り組む。 ・やりたい遊びを決めて、教師に伝える。 <p>家庭</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やりたい遊びを選んで遊ぶ。
<p>【支援の目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やりたいことや他の人への依頼等を言葉で伝えることができるようにする。 ・活動に見通しを持ち、一定時間、活動に取り組む力の向上を図る。 	
<p>【情報活用能力】</p> <p>学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カード、タイマー等様々な手立てに応じて自分の役割を果たす。 <p>家庭</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カード提示による指示を受け入れる。 (学校と家庭でカードを共有) 	<p>【将来設計能力】</p> <p>学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「～をしたら、〇〇できる」という見通しをもって、自分の役割を果たす。

(イ) 授業記録

対 象	知的障害 小学部4年 女子
-----	---------------

教科等名	日常生活の指導
題材名	朝の会（係活動）
本時の目標	○ゴミ捨てを一人で行う。 ○一つの活動が終わったら、次の活動に取り組む。
キャリア発達との関連	●この活動を頑張ったら自分の好きなことができる、教師に誉めてもらえるという経験を通して、物事をやり遂げようという気持ちを育てる。 【将来設計能力ーやりがいー】

学 習 内 容	指導上の留意点	キャリア発達との関連
1 あいさつ	<ul style="list-style-type: none"> ・着席を確認してから、当番に前へ出るよう言葉かけをする。 ・当番を見てあいさつするよう言葉かけをする。 	○人間関係形成能力 【集団参加・挨拶】
2 学習内容の理解	<ul style="list-style-type: none"> ・写真を提示し、活動内容を視覚的に確認できるようにする。 ・絵を用いた手順カードを利用し、望ましい活動の仕方を伝える。 	○情報活用能力 【活動の見通し】
3 ゴミ捨て	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の始まりを明確にするために、タイマーを使用する。 ・スタートボタンを押すよう指差しする。 ・逸脱しそうな時には、 ①正面を見て歩く人の絵カードを提示する。 ②アンパンマンの写真を提示し、「アンパンマンが待ってるから急ごうね」と言葉かけをする。 ・タイマーを止めるよう指差しする。 	○意思決定能力 【目標への意識・意欲】 ○情報活用能力 【活動の見通し】
4 振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・時間内にできた時は、言葉や身体接触による賞賛をしたり、大好きなアンパンマンを抱っこする時間を設けたりすることで、次の活動への意欲付けとする。 	意思決定能力 【振り返り・肯定的な自己評価】
5 あいさつ	<ul style="list-style-type: none"> ・着席を確認してから、当番に前へ出るよう言葉かけをする。 ・当番を見てあいさつするよう言葉かけをする。 	○意思決定能力 【目標設定と達成の取組】

(ウ) 授業の成果と課題

a 授業の成果

- (a) 以前は、教師の合図を受けてから活動に取りかかり、途中、ゴミ捨て場と反対の方向に行ったり、廊下の人の流れや窓の外の様子を眺めたりして、時間を要していたが、絵を用いた手順カードを作成し、望ましいやり方を伝えたり、タイマーを用いて動機付けにしたり、また、アンパンマンの写真を用いて、言葉かけをしたりすることにより、特定の場所で停滞し、多くの時間を費やすことが少なくなった。
- (b) 正面を見て歩く人の絵カードを新たに用いたところ、教師の言葉かけに対して、「まっすぐ」と話してすぐに動き出す場面が増えたため、さらに時間が短縮してきた。
- (c) 正面を見て歩く人の絵カードを、登校時にも使用したところ、効果があった。本児が望ましい行動をとるためには、言葉かけのみではなく、視覚情報を提示したり、本児の好きな活動を準備し用いたりすることが必要と考えられる。

b 授業の課題

- (a) 特定の場所で活動が止まり、言葉かけを受けることはまだあるため、今後は、言葉かけをさらに減らしていくための手立てを考えていきたい。

[県立弘前第一養護学校小学部]

(ア) 本人・保護者・教師の願い

<p>《対象》 知的障害 小学部6年 男子</p>	
<p>《本人》 「まかせて！ごみ捨て。ぼくのお仕事」～ごみ捨てがんばり隊！一人でしっかり最後まで！～ ・お仕事を頑張ることで、いっぱい褒められ笑顔いっぱい過ごしたい。</p>	
<p>《保護者》 ・自傷行為が減って欲しい。 ・自宅を生活の場として施設の利用を考えている。</p>	<p>《教師》 ・着替え、排せつ等の身辺処理で自分でできる部分を増やすこと。 ・スケジュール等を活用し、今行すべきことがわかり、落ち着いて活動に取り組むこと。 ・カード等を活用し、自分の要求や援助の依頼を相手に伝えること。</p>
<p style="text-align: center;">【支援の目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スケジュールを理解し、それに沿って行動する。 ・教師にカードなどを手渡して、自分の要求や援助の依頼を伝える。 ・ズボンや下着を下ろさずに排尿する。 ・自分でTシャツの着脱をし、脱いだ服をかごに入れて所定の場所へ置く。 	
<p style="text-align: center;">【人間関係形成能力】</p> <p>学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師にカードを手渡して自分の欲しい玩具等を要求したり、援助の依頼や終了の報告をしたりする。 ・手順書等を活用しながら、着替え、排せつ、手洗い、歯磨きなどの身辺処理を行う。 ・教師や友達と同じ空間で玩具や玩具で遊ぶ。 <p>家庭</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入浴時、腕や脚などを自分でこすり洗う。 ・ぬれタオルで顔を拭く。 <p>関係機関</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達や指導員と一緒に同じ玩具などで遊ぶ。 	<p style="text-align: center;">【意思決定能力】</p> <p>学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動時には目標とする回数や個数をあらかじめ決め、最後まで取り組む。 ・やりたいことや欲しい物を選択し、そのために課題や係活動などを遂行する。 ・メダルやシール、ごほうびパズルなどで、自分の頑張りを確認する。 <p>家庭</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の好きな玩具で遊ぶ。 ・スーパーで自分の欲しいお菓子を母親に差し出し、かごへ入れる。 <p>関係機関</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の好きな玩具で遊ぶ。
<p style="text-align: center;">【情報活用能力】</p> <p>学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スケジュールに沿って活動する。 ・教師や友達とボウリングなどの簡単なルールのある遊びをする。 ・脱いだ服や靴、自分の持ちものを所定の場所に置く。 ・教師と一緒に、レジでお金を支払う。 ・学級での係の仕事に取り組む。 <p>家庭</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族と一緒にレストランなどで食事をする。 <p>関係機関</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導員と一緒に買い物に出かける。 	<p style="text-align: center;">【将来設計能力】</p> <p>学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タイマーやスケジュールを手がかりに活動を終えたり始めたりする。 ・自分で検温をし、体温計を教師に手渡すことで報告する。 ・毎朝のランニングに参加し、自分のペースで休まずに走る。 ・係活動や教師に頼まれた仕事に最後まで取り組む。 <p>家庭</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎日同じ時刻で起床、就寝するようにし、規則正しい生活を送る。 <p>関係機関</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設周辺の散歩に出かけ最後まで歩き続ける。

(イ)授業記録

対 象	知的障害 小学部6年 男子1名
単元名	ぼくのお仕事がんばります！
本時の題材名	それでは、ごみ捨てっていきます！
本時の目標	○ごみ箱の前にあるごみを3つ拾い、ごみ箱へ入れる。 ○ごみ箱を持って、ごみ置き場へと移動する。
キャリア発達との関連	●学級での係活動を通して、自分が果たす役割がわかり、実行する。 【情報活用能力-はたらくよろこび-】 ●自分の役割を果たすことで達成感や充実感を持つ経験を積み重ねる。 【将来設計能力-やりがい-】

学習内容及び学習活動	指導上の留意点	キャリア発達との関連
<p>1 係の仕事「ごみ捨て」をする。</p> <p>(1) タイマー音を手がかりに、遊びをやめ、片付けをして靴を履く。</p> <p>(2) 教師からキューカードを受け取り、スケジュールへと移動する。</p> <p>(3) キューカードをカード入れに入れる。</p> <p>(4) スケジュールからごみ捨てカードを取る。</p> <p>(5) ごみ捨てカードを持って移動し、カードをごみ箱に貼る。</p> <p>(6) ごみを3つ拾い、ごみ箱に入れる。</p> <p>(7) ごみ箱を持つ。</p> <p>(8) ごみ箱を持って、ごみ置き場へ移動する。</p> <p>(9) ごみ箱をひっくり返して、ごみを捨てる。</p> <p>(10) ひっくり返したごみ箱を持ちかえる。</p> <p>(11) ごみ箱を持って教室へ移動する。</p> <p>(12) ごみ箱をもとの場所へ置く。</p> <p>2 教師に終了の報告をする。</p> <p>(1) 「終わりました」と書かれたカードを取り、教師に手渡す。</p> <p>3 報酬を受け取る。</p> <p>(1) 教師から、ごほうびパズルを受け取る。</p> <p>(2) 教師から受け取ったごほうびパズルをごほうび表にはめ込む。</p> <p>(3) パズルが完成したら報酬を受け取る。</p>	<p>・次の活動にスムーズに移ることが難しい場合（約5秒経っても動かない場合）は、言葉掛けや指さしをして促す。</p> <p>・別の場所に移動しそうになった場合には、間違える前に指さしや体に触れるなどして正しい方向へと促す。</p> <p>・ごみはスケジュールからごみ箱への動線上のごみ箱付近にあらかじめ置いておく。</p> <p>・ごみ箱を置くトレイを設置し、置き場所を明確に示す。 (写真1)</p> <p>・カードを渡されたら「終わりました」と言葉を添え、すぐにパズルを1ピース手渡すとともに、おおいに賞賛する。 (写真2、写真3)</p> <p>・報酬は2種類の中から本児が選択した物とする。</p>	<p>○将来設計能力 【習慣形成】</p> <p>○人間関係形成能力 【人のかかわり】</p> <p>○情報活用能力 【様々な情報への関心】 【はたらくよろこび】</p> <p>○人間関係形成能力 【意思表示】</p> <p>○将来設計能力 【やりがい】</p> <p>○意思決定能力 【目標設定】 【自己選択】 【振り返り】</p>

(ウ) 授業の成果と課題

本事例は、小学部重複学級における授業実践である。対象児童は、4月当初、情緒が安定しておらず、泣く、座り込む、床に頭を打ち付けるなどの行動が多く見られた。また、教師の言葉掛けや直接体に触れて一緒に活動するなどの支援を受けて活動することが多かった。23年度は「一人でできる！」を年間の目標として掲げ、様々な活動において教師の直接的な支援のみを活動の手がかりとするのではなく、スケジュールやワークシステム、支援ツール等を活用しながらそれらを手がかりにして活動するように取り組んできた。

本単元のごみ捨ては、係の活動として日常生活の指導において年間を通して実施している。ごみ捨ては清掃活動の一部ではあるが、活動自体が短時間で行うことができるため、毎日繰り返し取り組むことができる。また、ごみ箱に入っている物を捨てて空にすることは、本児にとって活動の目標がわかりやすいものであるように感じている。

本単元においては、ごみ捨てにおける活動のチェック表を作成し、できる部分と難しい部分、一人で取り組むにあたり支援が必要な部分はどこであるのかを明らかにし、授業改善をしながら取り組んできた。また、任務終了の報告や、自分の役割を果たすことで報酬を得ることができるようにすることで、「働く」ということの一部を経験するとともに、成就感や達成感を得ながら活動に取り組むことができるようにしてきた。

以下に本事例における成果と課題について記す。

a 授業の成果

(a) 「ごみ捨て」における一連の活動を、細かなステップに分けて評価していくことで、より支援の必要な部分がどこであるかが明確になり、授業改善における支援の根拠となった。また、本児がそれぞれのステップをクリアしていくことで「できる！」「できた！」が増え、一人で一連の活動を行うことができるようになった。(表1、図1)

(b) 自分の役割を果たすことで、報酬が得られるようにしてきたところ、笑顔で終了の報告カードを教師に手渡すなど本児なりに成就感を感じながら活動に取り組むことができるようになってきた。

b 授業の課題

(a) キャリア教育の観点における本授業実践での評価とその評価に基づく授業の改善について。

(b) キャリア教育の観点をさらに踏まえた授業に発展させていくために、本児にとって必要な項目とそれに関する学習内容の選定について。

表1 ごみ捨てにおけるチェック表

①キューをカード入れに					
②ごみ捨てカードを取る					
③ごみ箱に貼る					
④ごみを拾う					
⑤ごみ箱を持つ					
⑥ごみ置き場へ					
⑦ひっくり返して捨てる					
⑧持ちかえる					
⑨教室へ					
⑩元の場所へ					

0点…自立
 1点…言葉掛けによる支援で
 2点…指さしによる支援で
 3点…身体に触れての支援で



写真1
ゴミ箱を置くトレイ



写真2
報告カード



写真3
ごほうび表とごほうびパズル

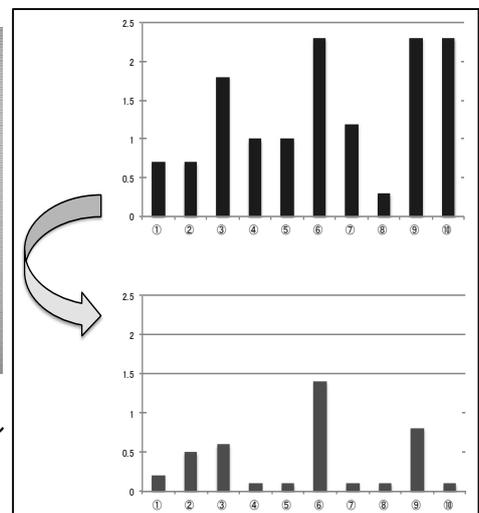


図1 授業改善における支援が必要な部分の変化

[県立八戸第二養護学校中学部]

(ア) 本人・保護者・教師の願い

<p>《対 象》知的障害 中学部 2年 男子A</p>	
<p>《本 人》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・将来は、警察官になりたい。 ・一人暮らしをしたいので、中学部卒業後は、青森第二高等養護学校に進学したい。 ・国語や数学の力をつける。体育の学習もがんばって体力をつけたい。 	
<p>《保護者》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国語と数学の力をできるだけつけてほしい。 ・できれば就職して、自立した生活を送ってほしい。 ・約束やマナーを守って行動してもらいたい。 	<p>《教 師》</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎自分の得意なことや苦手なことへの理解を深めた上で、様々な事柄に挑戦してもらいたい。 ・自分のことだけでなく、相手の立場に立った行動をとることができるようになってもらいたい。
<p>【人間関係形成能力】</p> <p>学 校 相手の気持ちや考えを理解しながら、自分の考えを表現できるようになってもらいたい。</p> <p>家 庭 丁寧な言葉遣いや振る舞いに心がけてもらいたい。</p> <p>関係機関 従業員の話を聞いて、大きな声で返事をしてもらいたい。(実習先)</p>	<p>【意思決定能力】</p> <p>学 校 自己評価活動を通して、自分の学習を振り返り、それを次の学習に生かしてもらいたい。</p> <p>家 庭 自分で決めたことは、自分で責任をとれるようになってもらいたい。</p> <p>関係機関 場に応じた丁寧な言葉遣いを心がけてもらいたい。(実習先)</p>
<p>【支援の目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・将来の夢や希望を叶えるために、必要な事柄を理解し、進んで様々なことに挑戦することができる。 ・相手の気持ちや考えを理解しながら、行動することができる。 	
<p>【情報活用能力】</p> <p>学 校 進路に関する情報を収集したり、体験的活動を行ったりすることで自分の得意不得意についての理解を深めてもらいたい。</p> <p>家 庭 買い物などを通して、お金の使い方や計画的な消費に慣れてもらいたい。</p> <p>関係機関 作業内容や手順を理解し、正確に作業してもらいたい。(実習先)</p>	<p>【将来設計能力】</p> <p>学 校 将来を見すえて、様々な学習活動に対し、意欲的に取り組んでもらいたい。</p> <p>家 庭 将来の夢に向かって、様々な取り組みに挑戦してもらいたい。</p> <p>関係機関 就労体験を通して、働くことに興味を持ってもらいたい。(実習先)</p>

(イ) 授業記録

対 象	知的障害 中学部 2年 6名 (男子4名、女子2名)
-----	----------------------------

教科等名	生活単元学習
題材名	校外学習へ行こう
本時の目標	○はし入れや皿洗いなど事業所での作業に、一定時間取り組むことができる。 ○(事業所の方に対して)大きな声で返事や報告をすることができる。
キャリア発達との関連	●事業所(飲食店)での就労体験を通して自己理解を深め、将来の仕事について考えることができる。【人間関係形成能力-自己理解-】

学 習 内 容	指導上の留意点	キャリア発達との関連
1 あいさつをする。	・語尾が聞こえるように話すよう促す。	○人間関係形成能力 【場に応じた言動】
2 日程を聞き、班毎に分かれる。 (事業所の方から)	・活動内容が分かっているか、生徒の実態に応じて個別に確認する。	○情報活用能力 【役割の理解と働くことの意義】
3 作業を行う。 (1) 準備をする。	・事業所の方の説明に注目し、手早く準備ができるように促す。	○将来設計能力 【習慣形成】
(2) 班毎に作業内容の説明を聞く。	・生徒の実態に応じて、説明後、手順の再確認をする。	○人間関係形成能力 【協力・協同】
(3) 班毎に作業を行う。 (1時間) 〈はし入れ班〉 はし袋に、はしの表裏や前後に気をつけながら正確に入れる。 〈皿洗い班(生徒A)〉 洗剤を用いて洗う人、洗剤を洗い流す人、乾燥機に入れる人に分かれて食器洗いをする。	・分からないことがあれば、積極的に事業所の方に尋ねるように促す。生徒の実態によっては、指導者が仲立ちする。 ・事業所の方に話しかけられたときは視線を向けることを意識するよう促す。 ・報告や相談をするときは、語尾まではっきりと話すように促す。 ・三種類の仕事に順番に取り組めるように場面設定するが、疲れたときや体に変調があったときは事業所の方に相談するよう促す(生徒A)。	○情報活用能力 【役割の理解と働くことの意義】
4 事業所の方からの評価を聞く。	・話をしている人の顔を見るように促す。	○人間関係形成能力 【自己理解・他者理解】
5 感想文を書く。	・作業の様子を振り返り、がんばったことや難しかったことを、書けるように、作業の場面を思い出せるように促す。	○意思決定能力 【肯定的な自己評価】
6 あいさつをする。	・感謝の気持ちを込めて、語尾が聞こえるように話すよう促す。	○人間関係形成能力 【場に応じた言動】

(ウ) 授業の成果と課題

a 授業の成果

- (a) 実習先の事業所に産業現場等における実習と同様に評価表を書いてもらうことにより、それを見て生徒一人一人が自分の得意なことや苦手なことに気付く手がかかりとなった。また、事業所に直接評価してもらうことで、生徒の学習に対する意欲を高めることができた。
- (b) 生徒達は、実際に仕事に取り組む中で自分の得意なことや苦手なことを理解し、苦手なこと（運動、大きな声で返事や挨拶することなど）を克服するための取り組みに意欲を示すようになった。特にA君は、はっきりとした口調で返事や挨拶ができることを自己目標にし、苦手な初めての場面でも、最後まで意識しながら取り組むことができた。
- (c) 事業所で一定時間働く体験ができたことで、働くことに対する意欲が増し、将来の夢に対して、前向きにとらえることができるようになってきた。
- (d) 生徒が自分の経験を他の生徒に伝えることで、就労体験をしていない生徒の中にも将来を見ずえて意欲的に授業に取り組む様子が見られるようになってきた。
- (e) 授業づくりにおいて、活動時間を長く設定したり立ち仕事の場面を増やしたりするなど授業改善が図った。なった。
- (f) 保護者に体験の様子を伝えたことで、特にA君は、休日や長期の休みを利用した将来を見ずえた取り組み（家庭内での役割を果たすことなど、お手伝いではなく自分の仕事としての取り組みなど）を行うようになった。
- (g) 実習先の事業所と生徒の実態を踏まえた体験内容などについて、事前に具体的に打ち合わせを行ったことにより、生徒に対して過度の負担を与えることなく就労体験を実施することができた。

b 授業の課題

- (a) 今回の就労体験は、学級単独の生活単元学習の枠で行い、授業の様子は校内の学習会で報告したが、学部内で就労体験をどう扱うか、更に検討が必要である。
- (b) 体験の感想文を書くことによる自己評価や事業所からの他者評価について、それらを定期的に振り返る場面を設定することで、高まった生徒の勤労意欲や学習意欲の持続を図っていきたい。
- (c) 十分な作業量や活動量を確保するとともに、一定時間休みなく最後まで活動に取り組めるよう、作業学習の内容改善や教材・教具の工夫を図っていきたい。



はし入れ班の様子



皿洗い班の様子

[県立黒石養護学校中学部]

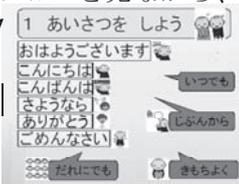
(ア) 本人・保護者・教師の願い

<p>《対象》 知的障害 中学部3年 男子A</p>	
<p>《本人》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高等部に入学して、作業学習の勉強をやりたい。 ・働きたい。ねぷた絵師（興味のある仕事）、クリーニング、パン屋（施設見学で良いと思った仕事）になりたい。 	
<p>《保護者》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自立して、生活をしていけるようになれば良いと思っている。 	<p>《教師》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高等部に進学し、卒業後は一般就労できるような力を身に付けさせたい。 ・自分の思いを誰かに相談することで、自分の気持ちを調整できるようになってほしい。
<p>【人間関係形成能力】</p> <p>学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活単元学習や作業学習において活動する際、達成感が得られるよう配慮し、自信が持てるようにする。 ・集団の中でリーダーを担いながら、仲間と分担、協力していけるようにする。 ・自分の気持ちや意見を適切に表現できるようにする。 ・学級全体に対する目標の提示を受け、あいさつ、言葉遣いや身だしなみに自ら気をつけるようにする。 <p>家庭</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者に対して自分の気持ちを伝えながらも、家族の状況を理解し、我慢できるように支援する。 <p>関係機関</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学園での生活場面において相手の気持ちを考えマナーを守った言動がとれるように支援する。 	<p>【意思決定能力】</p> <p>学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体力づくりの周回数や作業学習における作成数など具体的な目標数を設定することで、意欲を持って取り組むことができるようにし、やり遂げた成功体験をもてるように支援する。 ・修学旅行などにおいて、自己選択、自己決定場面を設定する。 ・中学部卒業後の進路を主体的に決定できるように、見学・体験の機会を設ける。 ・授業や行事の事後学習における振り返りで自己評価を行い、教師と一緒に解決策を考えていく。 ・嫌なことがあったり困ったりしたときに、誰にどのような場所で相談すればよいかを知り、相談しながらよりよい解決策を考えていけるようにする。 <p>家庭</p> <ul style="list-style-type: none"> ・可能な範囲で本人が決めることができるよう、また、兄弟間で望ましい関係を築けるよう配慮する。 <p>関係機関</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高等部の先輩との関わりをとおして、高等部入学についての意欲を高め、主体的に進路決定していけるようにする。
<p>【支援の目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誰かに相談をするなど、自分の気持ちを安定させる方法を身に付けさせる。 ・学習場面での自己選択、自己決定をとおして、自信を付けさせる。 ・自己調整の方法を身に付けさせる。 	
<p>【情報活用能力】</p> <p>学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画的で望ましいお金の使い方を知る。 ・学級や作業学習の班における役割を理解し、責任を持って継続的に実行できるようになる。 ・施設見学や校外学習をとおして様々な職業があることを知り、働くことに関心を持てるようにする。 <p>家庭</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本人から何かを要求されたときには、家族と相談し、計画的に実行する。 ・家庭において自分ができる役割を果たしたときには、家族が認める。 <p>関係機関</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学園において役割を果たせたときには、誉める。 	<p>【将来設計能力】</p> <p>学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開始や終了の時刻を意識しながら活動に取り組むことができるようにする。 ・将来の夢や希望を書き表し、叶えるために何をしたらいいのかを教師と一緒に考える。 ・好きな活動には自分から取り組み、やり遂げられるようにすることで達成感を味わい、やりがいを感じるように支援する。 <p>家庭</p> <ul style="list-style-type: none"> ・余暇活動の自己選択を支援する。 <p>関係機関</p> <ul style="list-style-type: none"> ・余暇活動の自己選択を支援する。

(イ) 授業記録

対 象	知的障害 中学部3年 7名 (男子4名、女子3名)
-----	---------------------------

教科等名	生活単元学習
題材名	校外学習へ行こう
本時の目標	○校外学習の行き先や日程などについて知る。 ○日々遂行している約束事が、校外学習や将来にどのように関係するのかを確かめる。
キャリア発達との関連	●校外学習で市内の授産施設や高等部ワークトレーニング社を見学し、働く人や仕事について知ることで、働くことに興味をもつ。 【人間関係形成能力－自己理解－】、【情報活用能力－情報収集と活用－】

学 習 内 容	指導上の留意点	キャリア発達との関連
1 あいさつ 2 学習内容について 3 校外学習について (1)進路学習で学び、日々遂行している約束の確認 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 1 あいさつをしよう 2 へんじをしよう 3 みだしなみ 4 ことばづかい 5 よいしせいをしよう </div> (2)校外学習の概要を知る (3)見学先について知る (4)しおりへの記入 (5)目標の発表 4 あいさつ	<ul style="list-style-type: none"> ・気をつけをして、声を出してあいさつする。 ・説明を理解したか確認する。 ・スライドショーを見ながら、確認していく。 <div style="text-align: center;">  </div> <p>使用したスライド</p> <ul style="list-style-type: none"> ・説明の際は、生徒に発表してもらい、覚えているかどうか自ら確かめる機会とする。 ・全体目標、行き先、日程、行き方等を伝える。 ・見学する施設や高等部のワークトレーニング社について知る。 ・項目にそって記入する。見学先での質問や自分の目標を考える。 ・はっきりした声で最後まで話す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○人間関係形成能力【集団参加・挨拶】 ○将来設計能力【活動の見通し】 ○人間関係形成能力【挨拶・清潔・身だしなみ、場に応じた行動】 ○情報活用能力【情報収集と活用】 ○人間関係形成能力【自己理解・他者理解】 ○情報活用能力【情報収集と活用】 ○意思決定能力【目標設定と達成の取組】 ○人間関係形成能力【意思表示】 ○人間関係形成能力【挨拶】

(フ) 授業の成果と課題

a 授業の成果

(a) 校外学習についての見通しを持つことができた。また、これまで進路学習で遂行してきた約束が、校外学習にも使うことができるということを知ることができた。校外学習後は高等部の先輩の態度に影響を受けて授業態度を反省し、高等部進学への意欲を高めていた。

b 授業の課題

(a) 実態に差がある集団（7人）での授業だったため、対象生徒は目標や質問を考えたり、見学先について教師に質問をしたりして意欲を見せていたが、説明のときに充分深めることができなかった。

[県立むつ養護学校小学部]

(ア) 本人・保護者・教師の願い

<p>《対 象》 知的障害 中学部 3年 男子 A</p>	
<p>《本 人》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国語、数学の勉強を頑張りたい。 ・ゲームが好きなので、ゲームソフトを買いたい。 	
<p>《保護者》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・将来は就職してほしい。施設、グループホームなどから職場に行き、給料をもらい、自分で好きな物を買えるようになってほしい。 ・友達とかかわる中で、やりとりしたり、協力して活動したりしてほしい。 	<p>《教 師》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達とかかわりの中で、適切なコミュニケーションを身に付けてほしい。 ・落ち着いて活動に参加してほしい。 ・将来の生活に必要な体力を付けてほしい。
<p>【人間関係形成能力】</p> <p>学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・状況に応じた言葉遣いや行動 (場に応じた言動) <p>家庭</p> <ul style="list-style-type: none"> ・買い物等での場に応じた言動 (場に応じた言動) <p>関係機関</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者との適切なかかわり (自己理解・他者理解) 	<p>【意思決定能力】</p> <p>学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝のマラソン (周回数の決定) (目標設定) <p>家庭</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分でやろうとしたことをやり遂げる。 (自己選択・決定、責任) <p>関係機関</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肥満対策 (自己調整)
<p>【支援の目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・視覚的支援を通して、落ち着いて活動に参加し、自分の役割を果たすことができるようにする ・状況に応じた適切な言葉遣いでやりとりができるようにする。 ・基礎体力の向上を図る。 	
<p>【情報活用能力】</p> <p>学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級における係活動 (役割の理解) ・職場体験学習、校内実習 (働くことの意義) ・写真カードやメモによるスケジュール (情報収集と活用) <p>家庭</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭内でのお手伝い (役割の理解) <p>関係機関</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用施設での係活動 (役割の理解) ・職場体験 (働くことの意義) 	<p>【将来設計能力】</p> <p>学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝のマラソン、ウォーキング、サーキット (習慣形成) <p>家庭</p> <ul style="list-style-type: none"> ・散歩 (習慣形成) <p>関係機関</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プールを利用した水泳 (生きがい・やりがい)

(イ) 授業記録

対 象	知的障害 中学部 3年 4名 (男子 4名)
教科等名	生活単元学習
題材名	「進路学習」～働くことについて考えよう～
本時の目標	○活動終了時の報告や活動内容の質問等を適切に行う。 ○働くために必要なことが分かる。 ○活動内容を理解して、終了時間まで取り組む。 ○自ら学習したことを発表する。
キャリア発達との関連	●将来働くために必要な基本的な習慣について考える。 【将来設計能力－習慣形成－】

学 習 内 容	指導上の留意点	キャリア発達との関連
1 挨拶	・教師も大きな声で挨拶する。	○人間関係形成能力 【集団参加・挨拶】
2 今日の学習の流れ	・黒板への注目を促す。	○将来設計能力 【活動の見通し】
3 働くことについて		
(1) 働くことと良いことと大変なことがあることを書いたり、発表したりする。	・黒板への注目を促す。 ・生徒の発言を促すような発問をする。	
(2) 健康管理、清潔、人とのつき合いについて、順番に質問に答えたり、書いたりする。	・生徒の反応を待つとともに、ヒントとなる言葉かけをする。 ・正答に対しては大いに賞賛する。 ・生徒が写しやすい板書をする。	○将来設計能力 【習慣形成】
4 学習の振り返り		
(1) ワークシートに自分の考えを記入する。	・まとめられるように、適宜、話をする。 ・今日の学習を振り返ることを促す。	○人間関係形成能力 【意思表示】
(2) 記入したことをみんなの前で発表する。	・発表する人への注目を促す。 ・発表できたことを賞賛する。	○人間関係形成能力 【意思表示】
(3) 教師の話聞いて、学習内容を再確認する。	・それぞれが書いたり、話したりしたことを用いて話をする。	○意思決定能力 【肯定的な自己評価】
(4) 今後の予定について確認する。	・今後、自分が働く、仕事をするという意識や意欲が高まるような説明をする。	○情報活用能力 【情報収集と活用】
5 挨拶	・教師も大きな声で挨拶をする。	○人間関係形成能力 【集団参加・挨拶】

(7) 授業の成果と課題

a 授業の成果

- (a) 板書は、難しい言葉が多かったが、生徒が理解できるような説明を工夫したり、生徒がわかりやすいように「課題、学習活動、まとめ」と配置したりすることができた。
- (b) ワークシートは学習内容に合わせて工夫して作成できた。
- (c) 授業改善シート、評価シート、授業評価シートを通して、学習内容一つ一つに対するねらいを確認できたり、授業の中で生徒一人一人に対して達成してほしい評価基準を設定できたり、観点別に授業を分析したりすることができた。
- (d) 将来設計能力【習慣形成】を主な観点として授業を行ったことで、指示があった時間を意識して授業しようと、生徒と教師が一緒になり活動することができた。

b 授業の課題

- (a) イメージしにくいと思われることを説明する時には、文章と音声言語のほかに、写真やVTR等の視覚的支援を用いて説明する必要がある。
- (b) ワークシートは、生徒一人一人が記入しやすいように、個別に配慮する部分をさらに検討して改善する必要がある。
- (c) 評価シートの評価基準を今以上に具体的にして、誰もがチェックしやすいものにする必要がある。
- (d) 将来設計能力【習慣形成】を主な観点として授業を行ったが、授業改善シートで展開に沿って観点を確認してみたところ、意思決定能力【肯定的な自己評価】や情報活用能力【情報収集と活用】の方が重要だという意見があり、主なところをよく見極めて授業を計画し、授業実践につなげていく必要がある。

【働くことについての学習から】



【 職場体験 】
牛舎の掃除



【 職場体験 】
ビルメンテナンス



【 職場体験 】
ビルメンテナンス

[県立七戸養護学校高等部]

(ア) 本人・保護者・教師の願い

<p>《対 象》 知的障害 高等部 2年 女子A</p>	
<p>《本 人》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職をしたい。 ・三沢市内に住みたい。最初は親と一緒に住み、貯金がたまったらアパートで一人暮らしをしたい。 ・車の免許を取りたい。 	
<p>《保護者》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・できれば就職してほしい。 	<p>《教 師》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業後の進路に向けて、自分で考えて決める力を付けてほしい。 ・作業学習を通して働く力（体力、態度、意欲）を身に付けてほしい。 ・様々な生活スキルを身に付けてほしい。
<p>【人間関係形成能力】</p> <p>学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達の考えを聞いたり、動きややり方を観察したりするように促し、自分との違いに気付く。 <p>家庭</p> <ul style="list-style-type: none"> ・場に応じた服装、身だしなみなどを心掛ける。 <p>関係機関</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学園での生活を通し、友達と好ましい人間関係を築く。 	<p>【意思決定能力】</p> <p>学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動の前後に、その意義や理由・改善方法を考える。 <p>家庭</p> <ul style="list-style-type: none"> ・普段の家庭生活でも自分で選択・決定する機会を設定する。 <p>関係機関</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現場実習を通して、自分の良さや課題に気付く。
<p>【支援の目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・好感がもてる態度を学習し、それを意識して人と接することができるようにする。 ・就労に向け、毎日の労働が可能となる体力を付けるようにする。 ・作業時間や効率的なやり方、完成度について考える習慣を身に付けるようにする。 	
<p>【情報活用能力】</p> <p>学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話を聞く際には、大事なことをメモを取る習慣を付ける。 <p>家庭</p> <ul style="list-style-type: none"> ・路線バスや電車等を実際に利用する。 ・小遣いなど自分のお金の計画を立てる。 <p>関係機関</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現場実習、職場見学などを通して、仕事の流れや就業規則、企業の組織などについて知る。 	<p>【将来設計能力】</p> <p>学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまで行った実習や学校での活動などを通して、自分の課題を改善する方法を考える。 <p>家庭</p> <ul style="list-style-type: none"> ・余暇活動の充実を図る。 ・買い物などを通して、お金を実際に使うことに慣れる。 <p>関係機関</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業生や事業所の方の話を聞き、仕事や卒業後の生活の様子について具体的なイメージをもつ。

(イ) 授業記録

対 象	知的障害 高等部 2年 10名 (男子6名、女子4名)
-----	-----------------------------

教科等名	生活単元学習
題材名	地域施設のトイレ掃除をしよう
本時の目標	○仕事内容や準備物、仕事をする際の心構えについて知る。 ○実習に向けて、自分の課題を意識して目標を設定する。
キャリア発達との関連	●卒業後の進路を踏まえて、実習の目標や計画を作成する。 【将来設計能力－進路計画－】

学 習 内 容	指導上の留意点	キャリア発達との関連
1 挨拶	・「お願いします」と話した後に礼をしているか確認する。	○人間関係形成能力 【挨拶】
2 現場実習ノートの作成	・必要な枚数を取るよう指示し、適切に綴じているか確認する。	○情報活用能力 【活動の見通し】
3 現場実習ノートの記入について	・事前に、実習先や内容について、進路指導主事に聞きに行く機会を設定する。	○将来設計能力 【進路計画】
(1)実習の目標	・実習の挨拶に行った際のメモを見ながら、必要事項を記入させる。	○情報活用能力 【情報収集と活用】
(2)実習先	・前回の実習の評価表や面談などを基に、自分の課題や改善すべき点についてあらかじめ確認させる。	○意思決定能力 【目標設定】
(3)通勤方法	・実習計画書、担当の名刺を配り確認させる。	○情報活用能力 【情報収集と活用】
(4)実習の約束	・路線バスを利用する生徒は、時刻表でバス停と時間を確かめさせ、練習する日を設定する。	○人間関係形成能力 【場に応じた言動】
(5)準備物の確認	・「名前を呼ばれたとき」「仕事を頼まれたとき」などの返事の仕方や仕事中の態度について確認する。	
(6)報告の電話の掛け方	・自分のメモを見ながら準備物を記入する。	
4 挨拶	・校内電話を使って練習する機会を設定する。	
	・「ご苦労様でした」と話した後に礼をしているか確認する。	○人間関係形成能力 【挨拶】

(ウ) 授業の成果と課題

a 授業の成果

- (a) 事前に行った三者での打合せの際に、必要事項を自分でメモしてから授業に臨むようにしたことで、自分なりに実習に向けての心構えや準備など、緊張感をもって臨むことができていた。
- (b) 一般就労を希望する生徒については、卒業後の就労の可能性がある事業所で実習を取り組ませることによって、自分の課題や目標について具体的に設定させることができた。

[県立青森第二養護学校高等部]

(ア) 本人・保護者・教師の願い

<p>《対象》 知的障害 高等部2年 男子A</p>	
<p>《本人》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作業学習では、集中して作業に取り組むことができるようになりたい。 ・卒業後は、働いたお金で生活したり、好きな物を買いたい。 	
<p>《保護者》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の力で働いて生活をしてほしい。 ・人の話をよく聞いて行動できるようになってほしい。 	<p>《教師》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題に積極的に取り組み、自信や意欲を高めてほしい。 ・ルールや約束を守る態度を身に付けてほしい。
<p>【人間関係形成能力】</p> <p>学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作業学習において、働く力が高い集団で活動できるようにする。 ・人間関係で困ったときには、教師に相談できるようにする。 <p>家庭</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者と相談して家庭において自分の役割を果たせるようにする。 <p>関係機関</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入所施設において、適切な人間関係が築けるように、場面をとらえて指導する。 	<p>【意思決定能力】</p> <p>学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産業現場等における実習を通して、将来の希望について考えることができるようにする。 <p>家庭</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭生活において、自分で判断して行動することができるよう習慣づける。 <p>関係機関</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業後の生活について、考える機会を設定する。
<p>【支援の目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・積極的に課題に取り組む姿勢を身に付けるようにする。 ・役割を理解し、最後まで取り組む力を身に付けるようにする。 ・自分の気持ちを身近な人へ相談する習慣を身に付けるようにする。 	
<p>【情報活用能力】</p> <p>学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・金銭管理についての基礎的な学習を行う。 ・卒業後の生活に潜む危険な状況を学習し、被害にあわないように考えることができる。 <p>家庭</p> <ul style="list-style-type: none"> ・帰省時には、簡単な買い物ができるようにする。 <p>関係機関</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入所施設において必要な物品を購入する機会を設定する。 	<p>【将来決定能力】</p> <p>学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業後の生活がイメージできるように、産業現場等における実習やグループホームの見学など、進路について考える学習を行う。 <p>家庭</p> <ul style="list-style-type: none"> ・帰省時には将来について、話題を持つようにする。 <p>関係機関</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入所施設における役割を責任を持って行うことができるようにする。

(イ) 授業記録

対 象	知的障害 高等部 1～3年 3名 (男子3名)
教科等名	作業学習
題 材 名	堆肥作り
本時の目標	○作業内容を理解して、最後まで取り組む。 ○スコップを使い、進んで堆肥を積み上げる。
キャリア発達との関連	●堆肥づくりを通して、仲間と協力して働く力、働く時に必要な態度を身に付ける。 【人間関係形成能力・将来設計能力】

学 習 内 容	指導上の留意点	キャリア発達との関連
1 あいさつ	・大きな声であいさつをするように伝える。	○人間関係形成能力 【集団参加・挨拶】
2 活動内容について	・説明を聞いて、作業内容を理解したか確認する。	○将来設計能力 【活動の見通し】
3 堆肥作り (1) 堆肥作りをしていたコーンポストを外す。	・腐敗臭をいやがらずに取り組むことができるように言葉かけをして取組を促す。	○情報活用能力 【情報収集と活用】
(2) 栽培した作物の茎や除草した草をスコップで移動させ、積み上げる。	・スコップやフォークを操作する際には、周りの人へ危険がないように、間隔をあける。 ・スコップの操作には慣れているが、上手に掘り起こせない時には、教師が見本をやって見せる。	○人間関係形成能力 【自己理解・他者理解】
(3) 20センチメートル程度積み上げたら、米ぬかと混ぜ合わせた酵素を振りかける。	・積み上げてある面全体に、米ぬかと混ぜ合わせた酵素を万遍なく振りかけるように言葉かけをする。 ※(2)及び(3)を繰り返し行う。	
4 あいさつ	・大きな声であいさつをするように伝える。	○人間関係形成能力 【集団参加・挨拶】 ○意思決定能力 【目標設定と達成の取組】

(7) 授業の成果と課題

a 授業の成果

本授業は、作業学習農耕班の学習活動として実施したものである。

本授業では、今年度栽培した作物の枝豆の枝やサツマイモのつる、除草作業の草、学校で剪定した樹木の枝などを使った堆肥作りを行った。

授業の成果として、以下の事項があげられる。

- (a) 生徒達が栽培した作物を活用した学習活動であることから、栽培した農作物を最後まで大切にすることを覚えることや、ともすれば、ゴミとして処理される農作物であっても有効活用できることを知る学習となった。
- (b) 生徒個々の堆肥に対する理解は十分ではないが、次年度以降の農作物の栽培において、生徒達が作った堆肥を活用することによって、堆肥が作物の成長に大切なものであると感じ取ることができるものと考えられる。そのことで、次年度以降の堆肥作りへの意欲につながることを期待される。
- (c) 外部講師を招いた学習であることから、講師の方の作業の仕方や作業に取り組む姿勢を目の当たりにし、また、振り返ることによって、自分たちの働く力はまだまだ足りないといった感想を持つ生徒がいた。このことは、生徒自身が、今後の産業現場等における実習や作業学習など、様々な場面でさらに力を付けるために頑張ることが大切であると感じてくれた場面であった。

b 授業の課題

講師の方の説明や指示を受けて、何をすべきなのか十分理解することが難しい生徒や進んで活動することができない生徒の姿が見られた。このような生徒の作業へ取り組む姿を俯瞰したことで、生徒に必要な力、講師を招いて指導する時に留意する事項を、より明確にする必要がある。

[県立青森第二高等養護学校（高等部）]

(ア) 本人・保護者・教師の願い

<p>《対 象》 知的障害 高等部 3年 女子 A</p>	
<p>《本 人》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スーパー関係などの接客業に就きたい。 ・働いた給料で好きな物を買ったり、旅行に行ってみたりしたい。 	
<p>《保護者》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元で就職できるようになってほしい。 ・マナーを守って生活できるようになってほしい。 	<p>《教 師》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・場面に応じた言葉遣いや態度に気を付けることができるようになってほしい。 ・身近な情報を収集し、生活の中で活用できるようになってほしい。
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 2px solid black; border-radius: 20px; padding: 10px; width: 45%; background-color: #f0f0f0;"> <p style="text-align: center;">【人間関係形成能力】</p> <p>学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職業との関係における自己理解、他者の考えや個性の尊重 <p>家庭</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要な支援を適切に求めたり、相談したりできる表現力 <p>関係機関</p> <ul style="list-style-type: none"> ・T P O に応じた言動 </div> <div style="font-size: 4em; margin: 0 10px;">↓</div> <div style="border: 2px solid black; border-radius: 20px; padding: 10px; width: 45%; background-color: #f0f0f0;"> <p style="text-align: center;">【意思決定能力】</p> <p>学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・将来設計や進路希望の実現を目指した目標の設定とその解決への取り組み <p>家庭</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分担家事の遂行とその支援 <p>関係機関</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題解決に向けた連携と情報収集の支援 </div> </div> <div style="text-align: center; margin: 20px 0;"> <div style="border: 2px solid black; border-radius: 20px; padding: 10px; width: 80%; margin: 0 auto; background-color: #f0f0f0;"> <p style="text-align: center;">【支援の目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・場面に応じた言動や態度に気を付け、どんな場面でも自ら行動できるようにする。 ・清潔感を意識した身だしなみを身に付けるようにする。 ・職業生活に必要な習慣形成を図る。 </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 2px solid black; border-radius: 20px; padding: 10px; width: 45%; background-color: #f0f0f0;"> <p style="text-align: center;">【情報活用能力】</p> <p>学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職業生活・社会生活に必要な事柄の情報収集と活用 <p>家庭</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会の仕組み、ルールを理解と賞賛 <p>関係機関</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会の様々な制度やサービスに関する理解と実際生活での利用 </div> <div style="border: 2px solid black; border-radius: 20px; padding: 10px; width: 45%; background-color: #f0f0f0;"> <p style="text-align: center;">【将来設計能力】</p> <p>学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・将来設計に結びつく進路計画 <p>家庭</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就労と新しい生活への期待と自立に向けた支援 <p>関係機関</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会資源の活用方法 </div> </div>	

(イ) 授業記録

対 象	知的障害 高等部3年
-----	------------

教科等名	総合的な学習の時間
題材名	フライ・ハイ
本時の目標	○情報の集め方や話し合いの仕方、まとめ方や発表の仕方など、学び方や物事の考え方を身に付ける。(課題解決のための方法を知る。) ○社会人として生活するために必要な知識や課題について、進んで学習し、解決しようとする態度を身に付け、社会で活用しようとする意欲を持つ。
キャリア発達との関連	●卒業後の地域生活を想定した疑問点や悩みの解決方法について、様々な方法で調べ、将来の生活設計に役立てる。

学 習 内 容	指導上の留意点	キャリア発達との関連
<p>1 市営バスを利用して、安全に目的地に到着する。</p> <p>2 旅行会社を訪問する。</p> <p>(1)旅行の仕方について説明を聞く。</p> <p>(2)担当者に質問をする。</p> <p>(3)お礼の挨拶をする。</p> <p>3 モータースクールへ訪問する。</p> <p>(1)自動車免許の取得について説明を聞く。</p> <p>(2)免許取得に当たっての疑問などを質問する。</p> <p>(3)お礼の挨拶をする。</p> <p>4 障害者就業・生活支援センターへ訪問する。</p> <p>(1)障害者就業・生活支援センターの概要を聞く。</p> <p>(2)担当者に質問をする。</p> <p>(3)お礼の挨拶をする。</p> <p>5 各自、市営バス等を利用して帰宅する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・集合場所と時間を確認しておく。 ・聞く姿勢とメモの取り方を確認する。 ・事前学習で行ってみたい場所と質問内容を確認する。 ・感謝を込めて挨拶をする。 ・安全に留意してバス停を確認する。 ・聞く姿勢とメモの取り方を確認する。 ・事前学習で免許取得までの流れ等を予想しておく。 ・感謝を込めて挨拶をする。 ・安全に留意してバス停を確認する。 ・聞く姿勢とメモの取り方を確認する。 ・登録の仕方や卒業後の支援について調べておく。 ・感謝を込めて挨拶をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○情報活用能力 【社会資源の活用とマネー】 ○人間関係形成能力 【集団参加・挨拶、身だしなみ】 ○情報活用能力 【情報収集と活用】 ○将来設計能力 【生きがい・やりがい】 ○情報活用能力 【情報収集と活用】 ○将来設計能力 【生きがい・やりがい】 ○情報活用能力 【情報収集と活用】 ○意思決定能力 【目標設定】 ○将来設計能力 【活動の見通し】 ○人間関係形成能力 【挨拶・他者理解】

(7) 授業の成果と課題

a 授業の成果

3 学年では、卒業後の生活に直接関連した題材を取り上げ、3 年間の学習のまとめの時間として、総合的な学習の時間の中に、単元「フライ・ハイ」を位置づけている。生徒達が卒業後に、地域で自立し、充実した生活を送るためには、個々のニーズに応じて地域で利用できる場所や利用の仕方などを、生徒が主体的に調べたりすることが必要である。

本単元では、地域ごとに生徒のグループで話し合ったり、卒業後の地域生活を想定した疑問点や悩みの解決策をインターネットや資料の活用、身近な人への聞き取りによる情報収集で調べたりする。そして、それらをもとに、各生徒が地元に戻って、フィールドワークを行った。フィールドワークの実施に当たっては、事前に綿密な学習計画を立て、保護者と連携を図って進めるとともに、生徒が主体的に活動できるように配慮し、学習を進めることで、以下の成果が見られた。

- (a) 調べた内容については、中間発表会や報告会を行い、他の生徒と共有化する場面を設定することで、生徒達は、個々の課題を発見し、自ら学び、自ら考えることができた。
- (b) 発表用資料の作成において、大まかなレイアウトは教師が支援したが、写真の説明は自分で考えて作成することができた。
- (c) 質問に対する返答を細かくメモし、そのメモを活用しながら A 3 版の画用紙にまとめた。また、特筆すべきこととして、社会に出た時の余暇活動の選択肢として、地元周辺にあるサークルについて、生徒が主体的にインターネットで調べることができた。
- (d) たくさんの関係諸機関に活用できるアドバイスをいただくことができた。

b 授業の課題

- (a) 「わたくしサポート」の記入に時間を要する生徒も見られた。より記入しやすくすることで、将来につながるようなサポートブックとなるよう工夫していきたい。

オ 病弱者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校

病弱者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校において実践してる授業の中から、中学部と高等部における取組事例を紹介します。

[県立青森若葉養護学校中学部]

(ア) 本人・保護者・教師の願い

<p>《対象》 病弱 中学部2年 男子A</p>	
<p>《本人》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校より普通中学校へ転出したい。 ・将来は、人の命を助ける職業に就きたい。 ・学力の向上を目指したい。 	
<p>《保護者》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校へ転出させたい。(本人の様子を見ながら進めていきたい。) ・将来は、本人が生きがいを感じられる仕事についてほしい。また、周りの理解が得られる環境で過ごしてほしい。 	<p>《教師》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校への転出に向けて、生活の基礎を整えてほしい。(毎日登校する。休まず活動に参加する。) ・ストレスに対しての発散方法や対処方法を身に付けてほしい。 ・場に応じた態度や言葉遣いを身に付けてほしい。
<p>【人間関係形成能力】</p> <p>学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集団の中で自分の役割をやり遂げる。 ・TPOに応じた言葉遣いをする。 <p>家庭</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣を身に付ける。 <p>関係機関</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大集団の中で学習できるようになる。 	<p>【意思決定能力】</p> <p>学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎日登校する。 ・目標に向けて努力し、失敗を認める。 <p>家庭</p> <ul style="list-style-type: none"> ・起床時間を守る。 <p>関係機関</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ストレスマネジメントを行う。
<p>【支援の目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の普通中学校への転出を目指し、集団での学習に参加できるようにする。 ・学校でのルールを守り、友達と仲良く過ごすことができるようにする。 	
<p>【情報活用能力】</p> <p>学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・将来に向けて必要な情報を、パソコン等で自分で収集し、選択できる。 <p>家庭</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宿題に一定時間取り組むことができる。 <p>関係機関</p> <ul style="list-style-type: none"> ・趣味(釣り)の情報を活用し、余暇の充実を図る。 	<p>【将来設計能力】</p> <p>学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夢や希望に向けた自己理解を進める。 ・意欲的に活動に参加する。 <p>家庭</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手伝いを習慣化する。 <p>関係機関</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大集団での行事に参加する。

(イ) 授業記録

対 象	病弱 中学部 2年 男子A
-----	---------------

教科等名	自立活動
題材名	自己理解② 木工製品の共同製作
本時の目標	○友達と協力して製品を製作することができる。 ○疑問点の解決や確認を自分から行う。
キャリア発達との関連	●自立活動における小集団での作業的活動への参加を通して、自分の役割を考える。 【人間関係形成能力ー協力・共同ー】

学 習 内 容	指導上の留意点	キャリア発達との関連
1 挨拶をする。		
2 本時の活動内容を知る。	・前時の活動の確認をした後、教師が見本の提示をし、完成イメージを持たせる。	○意思決定能力 【目標設定】 ○情報活用能力 【役割の理解と働くことの意義】
3 各自作業に必要な道具の準備をする。	・自分で判断して準備活動できるように待つ。必要に応じて言葉かけを行う。	○将来設計能力 【習慣形成】
4 切断、印付け、組み立ての各作業をそれぞれ一人で担当し、10分交代で作業する。	・作業内容について、分からないことは教師に聞きに来るように伝える。	○人間関係形成能力 【協力・共同】 【場に応じた言動】 【意思表示】
(1) 切断 印、のこ刃の位置を確認しながら木材を切断する。	・安全に留意する。各作業の仕方、道具の使用について確認し、必要に応じて正しい方法等を伝える。	○将来設計能力 【生きがい・やりがい】
(2) 印付け 木材の裏表を確認し、錐で印を付ける。	・生徒の気づきや提案をできるだけ認め、作業内容にフィードバックする。	
(3) 組立 ガイドを使用しながら、金槌を使用して釘を曲げないように打つ。		
5 交代の際には、作業の進捗や注意点を次の担当者に伝え、引き継ぎを行う。	・1回目の交代後は、できるだけ生徒間で進捗や注意事項等を伝達し合えるように言葉かけをする。 ・時間の区切りが難しい生徒には、作業の区切りを言葉かけしておく。	○人間関係形成能力 【自己理解・他者理解】 ○意思決定能力 【自己調整】

6 完成した製品の数と途中までの部品の数を確認する。	・生徒同士で確認し、話し合わせ、次時への改善点について気付くように言葉かけを行う。	○意思決定能力 【肯定的な自己評価】
7 片付けと清掃を行う。	・安全に留意し、製品の扱いと道具の片付け方法について、最低限の指示を出す。	○人間関係形成能力 【協力・共同】
8 次時の活動内容を知る。	・本時の反省や内容の確認後、生徒が次時への見通しを持てるように示す。	○意思決定能力 【目標設定】
9 挨拶をする。		

(7) 授業の成果と課題

a 授業の成果

自立活動の中で、生徒同士のコミュニケーションをねらって作業的活動を行った。普段の活動の中では、1対1での活動が多く、3人以上の小集団となることが少ない現状を踏まえ、友達とコミュニケーションを取りながら活動を進めていく場面を設定し、その中で確認、質問、内容伝達、注意事項等を伝えていくことが必要と考えた。活動の中では、計画段階において、教師が意図していなかった提案や質問も数多く聞かれ、楽しみながらも製品製作の精度を気にしながら真摯に向かい合っている様子が見られた。

b 授業の課題

小集団の中で自分の役割をしっかりと遂行し、その中で友達との協力・相談、作業への見通しを持つ計画性等の成長を期待したい。大集団での経験に乏しい環境の中で、自分のみならず友達の良さに気付き、達成感の味わい、自己有用感を高めていけるようにすることが課題である。

[県立浪岡養護学校高等部]

(ア) 本人・保護者・教師の願い

<p>《対 象》 病弱 高等部 3 年 男子 A</p>	
<p>《本 人》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の課題を意識して学習や作業に取り組む。将来は、地元の一般企業（株式会社ユニバーズ五所川原東店）に就職し、家族と一緒に暮らしたいと考えている。 ・自動車の免許を取得したい。 	
<p>《保護者》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本人の希望する就労先へ就職できればよいと考えている。 ・社会性を身に付けてほしい。 	<p>《教 師》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・希望の進路を実現するために、主体的に課題解決に向けて取り組み、自信を持って本人なりの自立した生活を送ってほしい。
<p>【人間関係形成能力】</p> <p>学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・TPOに応じた言葉遣いをする。 ・自己理解を深め、自分の良さを発見する。 <p>家庭</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族互いの個性を認め合う。 	<p>【意思決定能力】</p> <p>学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メモを取る、能率を考えて作業する等自分で課題を設定し、仕事のスキルアップに主体的に取り組み改善する。 <p>家庭</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害者手帳取得について話し合い、確認する。
<p>【支援の目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己有用感や自己肯定感の向上 ・様々な経験を重ね、いろいろな場面に対応できる精神力を培う ・適切な言葉遣いや場に応じた行動等、判断力の向上 	
<p>【情報活用能力】</p> <p>学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路希望先の会社や求められる社員像について調べ、必要な情報を得る。 ・必要に応じて電子手帳を用いて課題解決する。 <p>家庭</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手帳取得や職業評価等についての情報や就労支援センター等の助言を活用する。 <p>関係機関</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉サービスについて情報を提供する。 	<p>【将来設計能力】</p> <p>学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就労体験等を通じ、任された役割を責任を持って最後まで実行して達成感を味わう。 <p>家庭</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭での役割を明確にし、手伝いを主体的に行う。

(イ) 授業記録

対 象	病弱 高等部3年 1名 (男子)
-----	------------------

教科等名	課題学習 (学校設定教科)
題材名	これまでの実習を振り返ってみよう
本時の目標	○高等部3年間の産業現場等における実習を振り返り、自分が精神的に成長したことを確認する。 ○自分の進路決定に自信を持つ。
キャリア発達との関連	●自己理解を深め、肯定的に自分を評価し、卒業後の社会生活に見通しを持つ。【意思決定能力】

学習内容	指導上の留意点	キャリア発達との関連
1 あいさつをする。		
2 本時の学習内容を知る。 (1) これまでの実習を振り返る。 (2) 働くことに対する自分の気持ちの変化を確認する	・ 高等部3年間で経験した実習を振り返ることを伝える。	
3 これまでの実習先とその仕事内容を思い出す。	・ これまでに何回実習を行ったか、時系列で想起するヒントを与える。 ・ 想起できないときは、これまでの実習日誌が参考になることを伝える。	○人間関係形成能力 【意思表示】
4 実習毎に取り組んだ姿勢を数値で確認する。	・ 「働きたい」「楽しい」「喜び」「人との関わり」毎に満点を10点として点数を付けることを伝える。 ・ (現時点の本人の気持ちを10点とする。ホワイトボードの表に点数を記入していく。)	○人間関係形成能力 【人との関わり・自己理解】 ○意思決定能力 【自己選択】 ○情報活用能力 【働く喜び】
5 自分の心の成長を数値化する。	・ (上記表に「心の成長」を一行加える。) ・ 高等部初めての实習時から順に点数を記入するよう言葉掛けする。	○意思決定能力 【自己調整】 ○人間関係形成能力 【自己理解】
6 表を見て自分の心の変化を探る。 (1) 各実習で学んだことをキーワードで答える。 (2) ターニングポイントを考える。	・ それぞれの実習で本人が考えたことや分かったこと、課題に対する取り組みを想起するように言葉掛けする。 ・ (どのように変化していったのか、本人の言葉を大切に、選択肢を与	○意思決定能力 【振り返り】 ○人間関係形成能力 【意思表示】

7 自分の心の变化と今後の学校生活に対する抱負をまとめる。	<p>えたり言葉を補ったりしながら進める。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ (キーワードをホワイトボードに書いて、視覚的に確認できるようにする。) ・ 自分の課題とその解決方法についても考えるように言葉掛けする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○意思決定能力 【目標設定と取り組み】 ○将来設計能力 【習慣形成】
8 これまでの自分自身にエールを贈る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分のことを褒めてあげるとすればどんな言葉を掛けるのか考えるよう促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○意思決定能力 【肯定的な自己評価】 ○人間関係形成能力 【意思表示】
9 就職内定の報告に対して更なる意欲を持つ。	<ul style="list-style-type: none"> ・ これまでの努力が結果に結びついたことを(求人票を提示)伝え、称賛する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○将来設計能力 【夢や希望】
10 次時の学習内容を知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実習報告会の原稿作りをすることを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○意思決定能力 【自己決定・責任】
11 あいさつをする。		

(ウ) 授業の成果と課題

a 授業の成果

高等部3年間の産業現場等における実習を振り返ることによって、生徒自身が働くことに対する自分の気持ちの変化や適性について再確認することができた。3年間で計6回の実習について、「働きたい」「楽しい」「働く喜び」「人との関わり」などの気持ちの変化をそれぞれ数値化することにより、その変化を自分の目で確かめ、より具体的に振り返ることができたのではないかと考える。また、気持ちの変化の数値の変動に対して「心の成長」は確実に右上がりに数値が伸びており、仕事をすることは楽しいことばかりではないことや働く意欲を持ち続けるためには働く環境(物質的・人的)が大きく影響すること、主体的に課題を解決する努力をしなければならないことなどを振り返ると共に、自分自身の心はまだ成長段階であり、今後更に成長できることを確信することができたようである。「この調子で、今のまま頑張れ。」と自分にエールを贈った言葉に全てが現れている。

b 授業の課題

本生徒とは一対一の授業を行っている。集団学習の中で生徒自身が自分以外の生徒の考え方や感じ方を比較したり共感したり、互いに認め合い、高め合っていく過程をどのように補填できるかが在籍生徒が少ない本校の指導上の課題である。